



令和6年度 東部地域グローバル 人材育成事業

事業実施 報告書

令和7年(2025年)3月
山口県教育委員会

目次

1	事業概要	1
2	事業のめざすもの	2
3	今年度のプログラム	4
4	各プログラムの実施状況	7
5	修了レポート・修了証・参加証	33
6	事業実施体制	34
7	参加者アンケート	35
8	事業による効果	54
9	事業の総括	59

1 事業概要

事業名称	東部地域グローバル人材育成事業
主催	山口県教育庁高校教育課
期間	令和6年（2024年）7月20日～令和7年（2025年）2月1日
事業内容	（1）語学力育成プログラム （2）グローバル探究プログラム （3）国際交流体験プログラム （4）ローカル探究プログラム （5）グローバル・ラボ
活動日数	約12日 （グローバル探究プログラム4泊6日、グローバル・ラボ3日、国際交流体験プログラム1～2日程度、ローカル探究プログラム1日） ※「語学コース」の参加者は別途、語学力育成プログラム（オンライン英会話受講可能日92日）に参加
対象者	東部地域の県立学校8校（周防大島高等学校、岩国高等学校、岩国総合高等学校、高森高等学校、岩国商業高等学校、岩国工業高等学校、高森みどり中学校、岩国総合支援学校（中学部・高等部））の生徒のうち希望者
参加規定	全プログラムへの参加 参加プログラムに関するアンケート調査への回答 全プログラム終了時の修了レポート提出
コース	【1】語学コース ・語学習得を起点にしてグローバル人材をめざすコース。 ・英語学習を集中的に行うため「語学力育成プログラム」としてオンライン英会話に参加する。国際交流体験プログラムへの参加は1回とする。 【2】国際交流コース ・実践的な国際交流を起点にしてグローバル人材をめざすコース。 ・国際交流体験プログラムに2回以上参加する。「語学力育成プログラム」には参加しない。
参加者数	周防大島高等学校、岩国高等学校、岩国総合高等学校、高森高等学校、岩国商業高等学校、岩国工業高等学校、高森みどり中学校 計162名（語学コース48名、国際交流コース114名） ・志望動機の作文等を踏まえて県教育庁に設置する選考委員会で選考 ・期間中に家庭の事情等により5名が途中辞退
費用	個人負担 約13万円（税込）

2 事業のめざすもの

（１）事業目的

本事業は、日常的に外国人と接することが多い山口県東部地域の地域特性を活かして、「地域に住む外国人や海外との交流を通じた地域活性化に関する教育活動」を実施することにより、地域規模・国際的（グローバル）な視点や経験を活かして、自分たちの地域（ローカル）社会に貢献する活動を行う人材を育成することを目的とする。

（２）達成目標：育てたい力

「グローバル人材」とは、「グローバル（global、世界）」と「ローカル（local、地域）」を掛け合わせた造語で、地球規模・国際的（グローバル）な視点や経験を活かして、地域（ローカル）社会に貢献する人材を指す。

Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域社会で行動できること）を実現するために、次のような能力の育成をめざしていく。

■育てたい力① → 語学力・コミュニケーション力

グローバル人材にまず必要なものとして、グローバルに活躍するためのツール（道具）、具体的には語学力、会話スキル、コミュニケーション力などの習得が挙げられる。そのために、英語力の向上と、実際に外国人と会話するトレーニングを行っていく。

■育てたい力② → 多様性や多文化共生への理解

外国人との交流では、言葉のみならず相手の国の文化、礼儀作法の知識、異なる文化や価値観への理解、リスペクト及び柔軟な対応力が求められる。

こうした能力を自然に身に付けるためには、若いうちに多様な文化との接点を持ち、自分たちがこれまで過ごしてきたものとは異なる社会や文化があることを実感できる体験が重要である。そのため、外国人が身近な存在である東部地域の特性を活かし、こうした機会を設けていく。

■育てたい力③ → 自ら考え、物おじせず行動する力

異なる言語や文化を持つ外国人との交流では、相手が考えていることを理解する、あるいは想像するのも難しい局面のなかで自ら考え決断し行動していく能力も必要とされる。

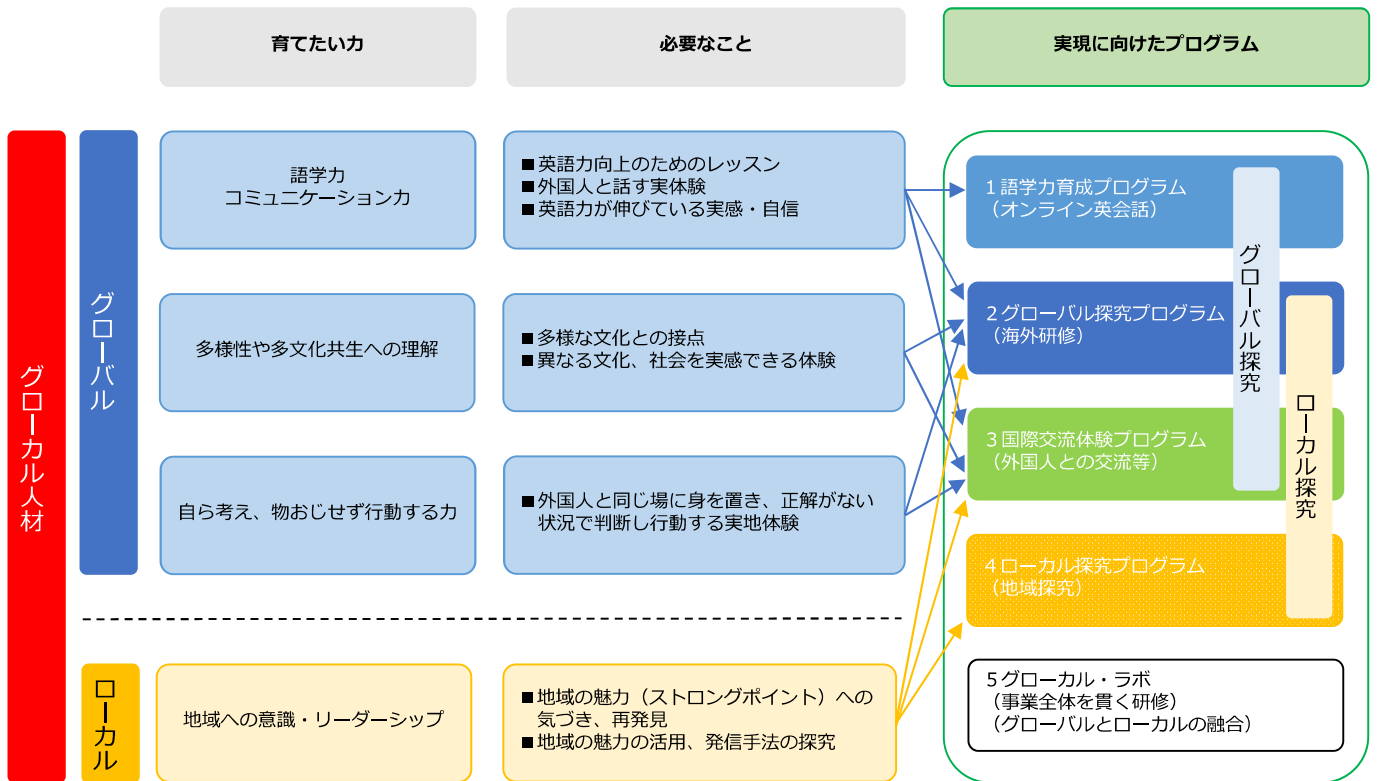
こうした能力を身に付けるために、実際に外国人と同じ場に身を置き、正解がない状況で判断し行動する体験を提供していく。

■育てたい力④ → 地域への意識・リーダーシップ

以上の3点は「グローバル人材育成」でも必要な能力であるが、「グローバル人材育成」においては更に、地域で活躍したいという意欲、地域社会に貢献して自らが地域を変えていくというリーダーシップが求められる。

自分の住む地域の魅力には気付きにくい面があるが、研修などを通じて地域課題やその解決方法の探究を行うことで、「自分たちが地域をけん引していく」という意欲を育てていく。

グローバル人材育成のイメージ



3 今年度のプログラム

(1) プログラム内容

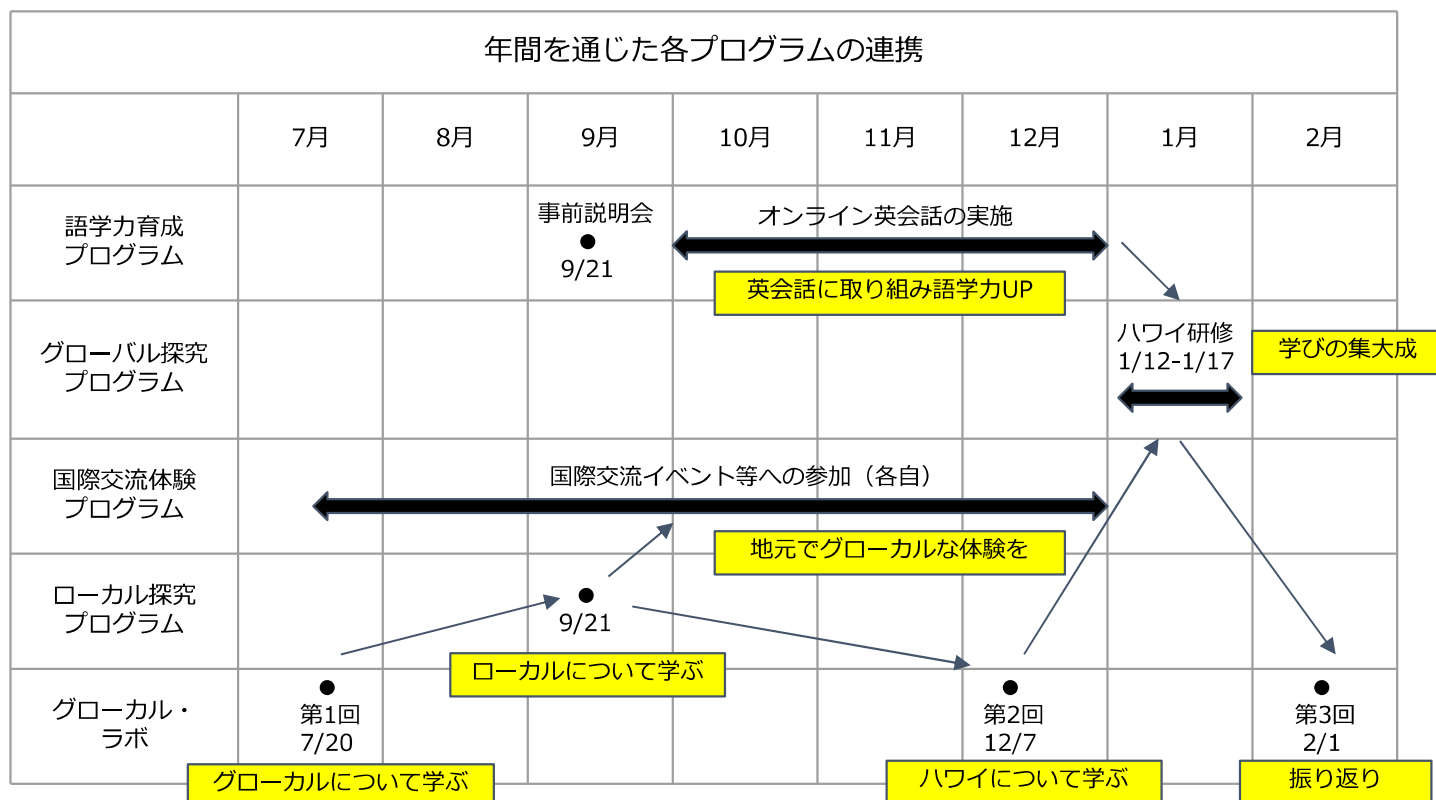
今年度は次の5つのプログラムを実施した。

令和6年度プログラムの具体的な内容

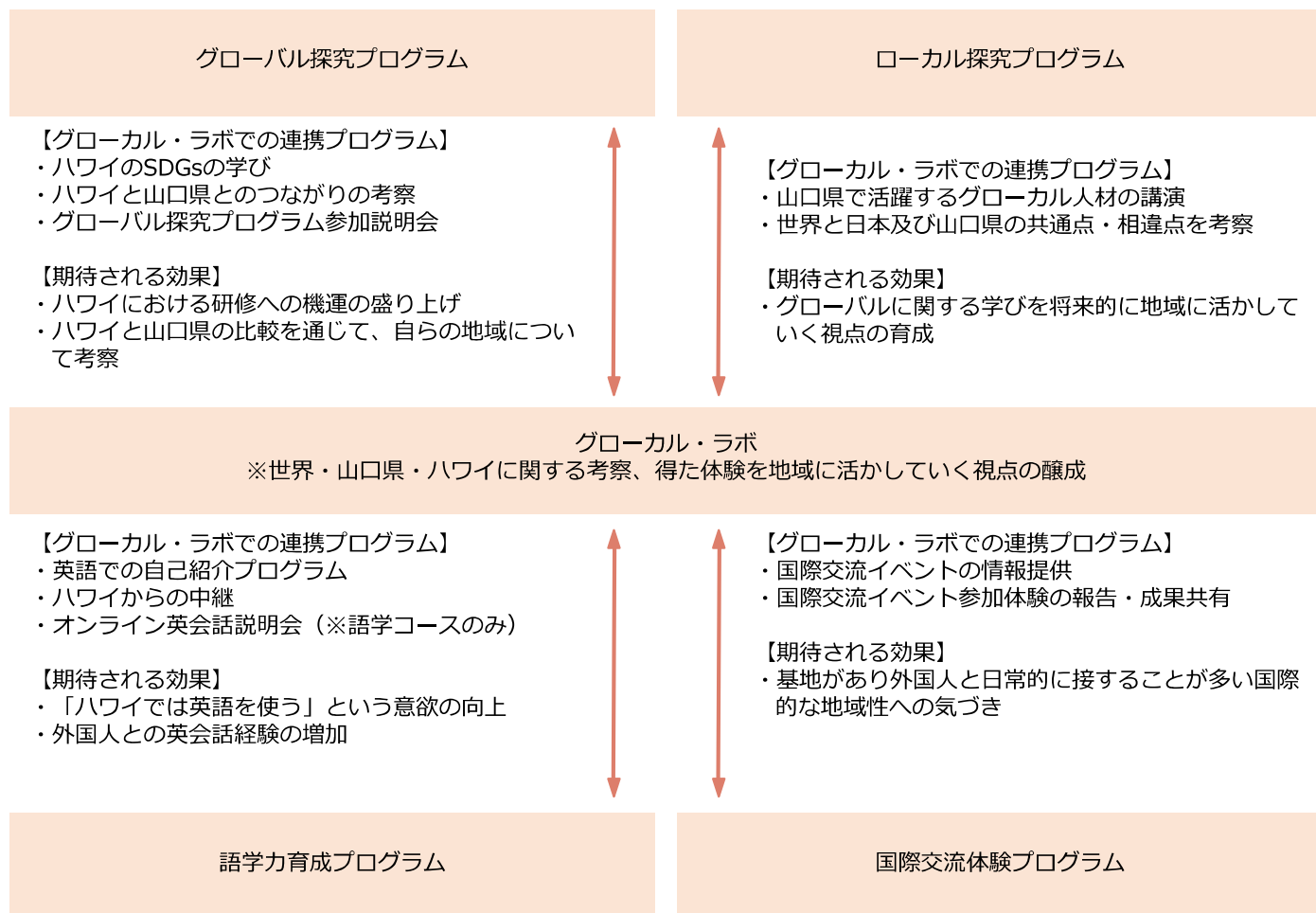
語学力育成プログラム (オンライン英会話)	・外国人を講師とするオンライン英会話を受講。1回25分、毎日受講可能、3ヶ月。 ・期間中、13回以上実施するものとする。 ※「語学コース」参加者対象
グローバル探究プログラム (ハワイ研修)	・海外を訪問し、他の国の社会や文化等を体験。多様性への理解につなげる。 ・英語を使わざるを得ない環境に身を置き、英語で自分の考えを伝えられる自信をつけ、外国人と話すことへの抵抗感をなくす。 ・現地でのフィールドワークによって幅広い視野を持たせるとともに、将来的な山口県における自らの取組の参考とする。
国際交流体験プログラム (外国人との交流等)	・岩国市等が実施している国際交流イベントや岩国基地との交流事業等に参加し、外国人と接する機会が多い東部地域ならではの魅力を知る。
ローカル探究プログラム (地域探究)	・地域人材による講演や講師とのディスカッションを通して、地域の課題を発見し、その解決に向けて行動する意識を育む。 ・グループワーク形式によるディスカッションを中心に、グループでの学び合いや、学びの深め合いを重視したものとする。
グローカル・ラボ (事業全体を貫く研修)	・上記を一貫する内容でワークショップや研修を実施。各体験を効果的なものとし、グローカル人材の総合的育成につなげる。 ・全3回実施。

(2) 各プログラムの連携

前ページの5つのプログラムについて、年間を通して相互に連携しながら進めて行くことで、グローバル人材の総合的な育成に取り組んだ。



各プログラムの関係性



(3) 事業日程

令和6年 (2024年)	4月24日(水) ～5月24日(金)	参加者募集
	6月5日(水)	選考委員会開催、参加者決定
	7月20日(土)	第1回グローバル・ラボ (シンフォニア岩国 大会議室)
	7月後半 ～12月末	国際交流体験プログラム
	9月21日(土)	ローカル探究プログラム (シンフォニア岩国 大会議室)
	10月1日(火) ～12月31日(火)	語学力育成プログラム[※語学コース]
	12月7日(土)	第2回グローバル・ラボ (岩国国際観光ホテル 錦雲閣)
令和7年 (2025年)	1月12日(日)	グローバル探究プログラム出発式 (シンフォニア岩国 多目的ホール)
	1月12日(日) ～1月17日(金)	グローバル探究プログラム (アメリカ合衆国ハワイ州)
	1月20日(月) ～1月26日(日)	アンケート調査
	1月26日(日)	修了レポート提出
	2月1日(土)	第3回グローバル・ラボ 修了証・参加証授与 (岩国国際観光ホテル ロイヤルホール)

4 各プログラムの実施状況

(1) 語学力育成プログラム

①目的

- 英語力を「グローバルに活躍できるためのツール（道具）」として捉え、語学力、会話スキル、コミュニケーション力の向上を図る。
- 自宅にいながら24時間いつでも外国人と英会話学習ができる環境を整備し、英語学習の障壁を取り払う。これにより英語を聞く機会・話す機会を増加させ、英語力の向上を図る。
- 様々な国の講師と接することで、異なる文化や社会、価値観を幅広く実感できるようにする。

②プログラム概要

期間	令和6年（2024年）10月1日（火）～ 令和6年（2024年）12月31日（火） 92日間
参加人数	48名（「語学コース」参加者）
実施体制	日本人・外国人を講師とするオンライン英会話を自宅等で受講 1回25分、毎日受講可能
昨年度からの改善点	●語学コース参加者を対象として、DMM英会話担当者による説明会を実施した。 ●受講ペースの維持・向上を図るためのフォローアップ体制を強化した。 ●初期段階における抵抗感を軽減するため、日本人講師を選択できるようにした。



DMM英会話 平柳氏による説明



説明会資料より抜粋



(2) グローバル探究プログラム

①目的

- 海外を訪問し、他の国の社会や文化等を体験して、多文化理解、多様性理解につなげる。
- 英語を使わざるを得ない環境に身を置き、英語によるコミュニケーション力を養う。英語で自分の考えを伝えられる自信をつけ、外国人と話すことへの抵抗感をなくしていく。
- 他の国・地域におけるグローバルな先進的取組を体験することにより、視野を広げるとともに、山口県における将来的な自らの取組の参考とする。

②プログラム概要

期間	令和7年（2025年）1月12日（日）～ 1月17日（金） 4泊6日
場所	アメリカ合衆国ハワイ州
参加人数	154名
活動単位	●基本的にグループ単位で活動（1グループ10名程度） ●1日目及び2日目のプログラムには各グループに現地大学生リーダー（以下「現地リーダー」という）1名が参加 ●全日程について、一部のグループには山口県立大学生メンター（以下「県大生メンター」という）1名が参加 ●グループメンバー及び担当の県大生メンターは事業当初に決定し、グローバル・ラボ等も同一のメンバーで実施
プログラムの進め方	●グループメンバーと協力しながら主体的に考えて行動する体験型プログラムとすることで、コミュニケーション力、物おじせず行動する力などの獲得をめざす。 ●常に少人数のグループ単位で現地リーダーを中心に行動することで、英語力の向上を図るとともに、外国人と会話する経験を多く積む。 ●ハワイと日本の共通点・相違点を常に意識することで、山口県や自分の住む地域の良さや課題に気づく。 ●プログラム全体のテーマを「Think Globally, Act Locally」とし、帰国後に自らの決意を表明する。
昨年度からの改善点	●現地での学びを深めるため、日本での事前研修の内容・配列を再検討した。 ●ホノルル山口県人会との交流をハワイ研修初日に実施した。 ●目的意識をより一層高めるため、滞在期間中のルールを明確化した。

③日程

日程	日付	現地時間	活動内容
1	1/12 (日)	午前	出発式 (シンフォニア岩国)
		午後	岩国錦帯橋空港より羽田空港へ (空路) 羽田空港より成田空港へ (バス) 成田空港よりハワイ・ホノルルへ (空路)
		午前	-----日付変更線通過----- ハワイ・ホノルル着
		午後	フィールドワークプログラム<1> 【A】 パールハーバービジターセンター、戦艦ミズーリ記念館、太平洋航空博物館 【B】 ビショップミュージアム、オアフ島東部見学
		夕方	現地プログラムでの達成目標の確認
2	1/13 (月)	終日	フィールドワークプログラム<2> ホロホロ・アドベンチャー (ホノルル市内研修)
3	1/14 (火)	終日	現地交流・体験プログラム 【A】 カウアイ島交流プログラム 【B】 カラニ高校交流プログラム 【C】 オアフ島体験プログラム
4	1/15 (水)	終日	自主研修プログラム
5	1/16 (木)	午前	ハワイ・ホノルルより成田空港へ (空路) -----日付変更線通過-----
6	1/17 (金)	午後	成田空港より羽田空港へ (バス) 羽田空港より岩国錦帯橋空港へ (空路)

④実施状況

出発式

<式次第>

1. 主催者挨拶
2. 知事激励
3. 県議会議長挨拶
4. 生徒代表挨拶
5. 記念撮影
6. 諸連絡

グループごとに岩国錦帯橋空港へ出発

- シンフォニア岩国において、村岡嗣政山口県知事、柳居俊学山口県議会議長、繁吉健志山口県教育委員会教育長、及び全ての参加者の出席のもと、出発式が行われた。
- 繁吉教育長、村岡知事、柳居議長それぞれから、参加者に向けて激励のメッセージがあり、出発に向けて一段と気が引き締まった。
- これらを受けて、参加者代表として、坂本帆渚さん（岩国高校2年）から、関係者への感謝の言葉、実際にハワイでグローバルに関する取組について学んできた旨の力強い決意表明があった。
- 最後に全員での記念撮影が行われた。
- 記念撮影後は、グループごとに分かれて岩国空港へと向かった。



出発式の様子



参加者代表の挨拶



参加者全員での記念撮影

フィールドワークプログラム＜1＞（1日目）

- ハワイ到着後、ハワイが現在の姿となるまでの歴史や文化などについて学ぶため、2班に分かれてフィールドワークプログラムを実施した。

【A】パールハーバービジターセンター、戦艦ミズーリ記念館、太平洋航空博物館

パールハーバービジターセンター

- 真珠湾の名前で知られているパールハーバーは、アメリカにとっても日本にとっても特別な場所である。真珠湾攻撃に関する資料館をはじめ、ショップなどもあり、参加者は各グループに分かれて、現地リーダーと一緒にビジターセンター内を散策した。

戦艦ミズーリ記念館

- 戦艦ミズーリは、最後の戦艦と呼ばれてアメリカ国民に親しまれている。太平洋戦争では沖縄での作戦に参加しており、その時に受けた攻撃跡も残っている。
- 戦艦ミズーリは、第二次世界大戦の降伏文書調印式が行われた場所でもあり、日本とも深い関わりを持っている。当時の姿のまま一般公開されており、参加者はガイドの案内のもと艦内を見学した。
- 途中、敷地内にあるレストランで現地リーダーと会話を楽しみながら昼食をとった。

太平洋航空博物館

- 第二次世界大戦時代の航空の歴史に関する品や、実際の戦闘機等が館内及び館外のスペースに展示されていた。
- 参加者は館内、館外の2グループに分かれて見学をした。
- 館内では第二次世界大戦に関する展示が多く、ガイドから歴史についての解説を直接聞くことができた。日本の零戦等も展示されており、アメリカ側・日本側双方の視点から歴史を見つめる機会となった。
- 館外では実物の航空機が数多く展示される中、参加者はワークシートを受け取り、ゲームを交えながら各航空機の説明を受けた。参加者は実際に操縦席等にも座ることもできた。



パールハーバービジターセンター



戦艦ミズーリ記念館



太平洋航空博物館（館外）



太平洋航空博物館（館内）

【B】ビショップミュージアム、オアフ島東部見学

オリエンテーション

- ビショップミュージアムはハワイの歴史に関する研究とその保存を目的とする、カメハメハ王家と深いつながりを持つハワイ州最大の博物館であり、ハワイの美術工芸品、王家伝来の工芸品、ハワイと太平洋諸島ポリネシア全域の文化に関する工芸品、文献、写真など、2,500万点を超える世界的にも価値の高い収蔵品が収められている。オリエンテーションでは、ミュージアムの成り立ちとコレクションについて、ハワイの歴史も交えながら説明を受けた。



沿革や歴史、見どころについて学ぶ

館内探検ツアー

- 現地リーダーとともに各グループに分かれて、英語での説明を聞きながら館内のコレクションを見て回った。ハワイの歴史や自然、文化などについて幅広く学ぶことができた。



グループごとに現地リーダーを交えてランチ

オアフ島東部見学

- ビショップミュージアムの見学を終えたあと、オアフ島の東部地域をバスで巡った。全米でも有数のビーチがあるカイルアエリアを車窓から見学し、ハロナ潮吹き海岸が見られる展望台では、その迫力ある絶景に「ハワイにやってきた」という実感を覚えた参加者も多かった。その後、高級な住宅が立ち並ぶカハラエリアを通過してワイキキへ向かった。



クイズやミッションに取り組む



ビショップミュージアム前で記念撮影

現地プログラムでの達成目標の確認（1日目）

- ホテル到着後のオリエンテーションに先立ち、ホノルル山口県人会のGail Wakatake氏とMark Saruwatari氏、Nikki Thompson氏（ハワイグローバル教育財団）に登壇いただき、参加者へ歓迎と激励の言葉をいただいた。ハワイの祭りなどに山口の文化が残っていることなど、ハワイと山口のつながりについて話していただいた。
- 1日目及び2日目の現地体験プログラムを担当するKevin Ching氏（LbE Hawaii）より、プログラムにおける目標などの説明があった。
- 各グループに分かれて、現地リーダーと共に課題に取り組んだ。これらは全て英語で行われた。
- オリエンテーションの最後にはスタッフより、現地滞在における注意事項等の共有があった。



ホノルル山口県人会による歓迎



Kevin Ching氏より



会場の様子



グループワーク

フィールドワークプログラム＜2＞ ホロホロ・アドベンチャー（2日目）

- 現地リーダーと一緒に、ホノルル市内を公共交通機関や徒歩で巡り、ハワイと日本の共通点や相違点について学ぶ、フィールドワーク「ホロホロ・アドベンチャー」を実施した。
- インターナショナルマーケットプレイスにてオリエンテーションを行った。現地リーダーの自己紹介ののち、グループ対抗でのゲームを行い、出発する順番を決めた。
- 指示書にある謎を解き、ミッションを達成しながら、ホノルル市内にある名所を回った。現地リーダーとは全て英語でやりとりをして、グループのメンバーで協力をしながら参加した。グループ内での会話が増えたことにより、チームの一体感が生まれた。実際にバスに乗車するなどしたことで、ハワイの日常に触れることができた。
- 県大生メンターも、終日、参加者とともに行動し、熱心なサポートを行った。
- アラモアナビーチでのごみ拾いミッションなど、SDGs についても触れることができた。最後はカピオラニ公園で振り返りを行い、フィールドワーク終了となった。一日を通して英語学習はもちろんのこと、ハワイの文化や生活にも多く触れることができ、充実した研修となった。

＜主な訪問先＞

インターナショナルマーケットプレイス、ウォールアート、バイクシェアリングサービス、アラモアナビーチ、イオラニ宮殿、カメハメハ大王像、ワイキキビーチ、デューク像、カピオラニ公園 ほか



現地リーダーの紹介を行い、いざ出発



ビーチでプラスチックごみを拾うSDGs体験



ウォールアートを見学



カピオラニ公園にて最後の謎解きと一日の振り返り

現地交流・体験プログラム（3日目）

- 3日目は3班に分かれ、それぞれ現地の学生や地域の方々と交流を行った。

【A】カウアイ島交流プログラム

- 周防大島高校の生徒は周防大島の姉妹島であるカウアイ島を訪問した。
3つのグループに分かれて、現地の高校生と交流を行った。

カウアイ高校・カウアイ山口県人会との交流

- 第1グループはカウアイ高校を訪問して交流を行った。軽食とともにウェルカムセレモニーが行われ、それぞれの学校について相互にプレゼンテーションを行った。現地の高校生と一緒に校内を散策したり、フラダンスを踊ったりした。カウアイ山口県人会のCheryl Shintani会長やChie Roessler氏にもお越しいただき、交流を深めた。

カウアイ郡への表敬訪問

- 周防大島高校の校長と生徒3名、山口県教育委員会の関係者1名の計5名でカウアイ郡庁を訪問した。カウアイ島と周防大島のつながりなどについて、Derek Kawakami郡長と話をすることで、相互の交流を深めることができた。

カパア高校との交流

- 第2グループはカパア高校を訪問して交流を行った。押し寿司を作る体験等を行い、現地高校生と交流を深めた。

ワイメア高校との交流

- 第3グループはワイメア高校を訪問して交流を行った。学校巡りやレイ作りなどを通して現地高校生と交流を深めた。

カウアイ島の見学

- 学校訪問終了後は、ワイルア・リバー州立公園やキロハナ大農園、ワイメア溪谷等を見学した。



カウアイ郡への表敬訪問



一緒にフラダンス



カパア高校にて



ワイメア高校にて



カウアイ高校にて



キロハナ大農園にて

【B】カラニ高校交流プログラム

- 岩国高校の生徒は、姉妹校であるオアフ島のカラニ高校を訪問し、同校の生徒と交流した。
- ウェルカムセレモニーにおいて、生徒代表が英語で挨拶を行い、記念品の贈呈、相互の文化紹介等を行った。
- カラニ高校の生徒がグループリーダーとなり、グループごとに化学、セラミックス、園芸、アート、料理、音楽など、専門性の高い様々な授業に参加する校内ツアーを行った。
- ランチの後は、引き続きカラニ高校の授業に参加し、放課後はスポーツ活動の様子などを見学した。
- 夜は、カラニ高校の教員・生徒（一部）と岩国高校からの参加者全員で夕食を共にして交流した。



カラニ高校のウェルカムボード



校内のウォールアート前にて



ダンスレッスンを体験



カラニ高校の生徒と一緒にレイづくり



グループごとに特色ある授業を体験



ウクレレの演奏にチャレンジ

元気玉プロジェクト

- このプロジェクトはアラワイ運河の水質改善のために、有用微生物を含めた泥団子（元気玉）を運河に投入し、生物多様性を回復させることによりアラワイ運河本来の姿「泳げる、釣りができる」運河の復活をめざすプロジェクトである。ボランティアグループによる指導のもと、参加者は元気玉を750個作り、アラワイ運河へ投入した。楽しみながらサステナブルな活動を行うことができた。



元気玉づくり

ハワイ大学キャンパスツアー

- ハワイ大学の学生メンターが引率して、英語でキャンパス紹介を行った。現地学生と昼食をとるなどし、ハワイでの学生生活を体験した。



元気玉をアラワイ運河に投げ入れる

ハワイ日本文化センター

- ハワイ日本文化センターは日系人の歴史と文化遺産を残すことを目的とした施設であり、参加者は日本語ツアーと英語ツアーに分かれて施設内を見学した。日系人が大切にしてきた価値観や文化、移民生活など、当時の日本とハワイの様子や歴史的背景、多文化共生を果たしながら生きる現在の日系人の姿について学んだ。



プロジェクト参加者での記念撮影

パンチボウル国立太平洋記念墓地

- パンチボウルは現在、国立太平洋記念墓地として使われており、太平洋戦争やベトナム戦争で亡くなった兵士の名も墓石に刻まれている。また、連邦上院議員として活躍し、現在のホノルル空港の名前にもなっているダニエル・K・イノウエもこの地に埋葬されている。参加者は、日系人も多く眠るこの墓地を車窓から見学し、あらためて平和の大切さについて考えた。

ホールフーズマーケット

- ホールフーズマーケットは地元農家の支援にも積極的に取り組んでいる自然派スーパーである。参加者は、保存料や添加物を含まない食品や石鹸など、日常生活に溶け込んでいるアロハプラスチャレンジのあり方を学んだ。



ハワイ大学にて



ハワイ日本文化センターにて

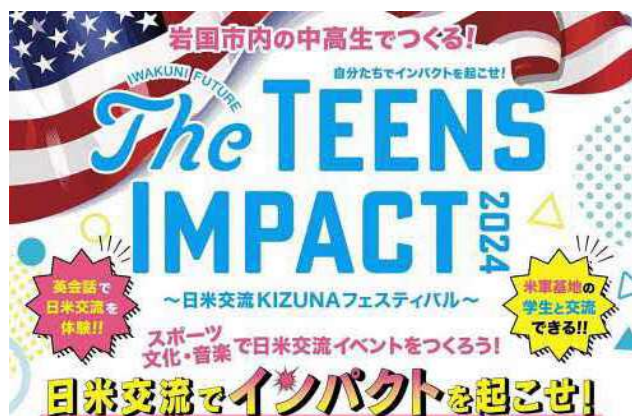
(3) 国際交流体験プログラム

①目的

- 身近な地域で外国人とのコミュニケーションを実際に体験する。
- 外国人と対面で行う英会話の経験を積むことで、語学力及びコミュニケーション力の向上を図る。
- 国際交流の機会を通じて、外国人と接する機会が多い東部地域ならではの魅力や地域課題への気づきを促す。

②プログラム概要

期間	令和6年（2024年）7月～令和6年（2024年）12月
場所	岩国市をはじめ県内各所
プログラムの進め方	●岩国市、山口県等が主催する国際交流イベント等に参加し、外国人と共に活動する（ボランティア参加も含む）。参加生徒が自ら申し込み個別に参加する。 ●学校内のALTや留学生と、テーマを決めてディスカッションする。
昨年度からの改善点	●グローバル・ラボやポートフォリオ等で、イベント情報を幅広く告知した。



The TEENS IMPACT 2024 ～日米交流KIZUNAフェスティバル～（主催者Instagramより）



日米親善リレーマラソン2024 in 岩国（主催者HPより）



日米交流事業 SEED PROJECT 2024-25（主催者リーフレットより）



Holiday Tree Lighting（主催者HPより）

③参加した国際交流イベント等

以下のような国際交流イベント等への参加があった。（参加者の報告書から一部を抜粋）

イベント名	日付	開催場所	内容
日独スポーツ少年団 同時交流事業	2024年 7月28日	岩国高校同窓会館	英語で説明をしながら、ドイツからの訪問者に茶道体験を実施する。
Let's Draw!	2024年 8月8日	Plat ABC	お気に入りのマンガやアニメを紹介するイベント。紹介し合ったキャラクターの中から気に入ったものを実際に描いてみてお互いの絵を見ながら英語で交流する。
Neon Night Run 2024	2024年 8月9日	愛宕スポーツコンプレックス	米海兵隊岩国航空基地が主催するファミリーファンランイベント。
夏祭り	2024年 8月25日	Plat ABC	夏祭り縁日の国際交流イベント。浴衣の着付け体験や輪投げなど。
日米交流事業 SEED PROJECT 2024-25	2024年 9月7日 ～9月8日	M.C.ペリー・ハイスクール	2日間に渡り、基地内の学校で交流を実施。岩国市の特産品や観光資源を活用した新しい商品・サービスについてグループで考え、英語と日本語でプレゼンテーションを行う。
山口から世界へGoGo プログラム	2024年 9月14日	KDDI維新ホール	中高生向けの留学に関する説明会。留学に関するプログラムの紹介や海外進学へのプロセス、実際に留学経験のある大学生の体験談、ALTとの交流など。
日米協会岩国料理教室	2024年 9月26日ほか	愛宕スポーツコンプレックス	外国人と料理を作りながら交流する。
ヒッポファミリークラブ 体験会	2024年 10月17日	岩国市民文化会館	英語だけではなく様々な言語に触れることができるイベント。
The TEENS IMPACT 2024 ～日米交流KIZUNA フェスティバル～	2024年 10月26日 ほか	愛宕山ふくろう公園ほか	ファッションショー、屋台、相撲などを通して日米交流イベント。運営スタッフとして参加した生徒は事前の会議や米軍基地での意見聴取にも参加。
PLAT ABC Spooky Night	2024年 10月26日	Plat ABC	基地ボランティアと一緒に本場アメリカのハロウィンを体験する。
錦帯橋イングリッシュ フィールドトリップ	2024年 10月27日	吉香公園及び錦帯橋周辺	錦帯橋周辺で外国人の方にインタビューを実施する。
ハロウィンカーニバル	2024年 10月27日	岩国市民文化会館小ホール	仮装してアメリカのハロウィンを体験し、様々な国の人と交流する。
SORA HAUNTED HOUSE	2024年 10月31日	SORA 岩国駅前校	ハロウィンにちなんでお化け屋敷を開催。外国人と交流する。

イベント名	日付	開催場所	内容
Washi Bag Lantern Making	2024年 11月3日	Plat ABC	外国人向けの日本伝統文化体験イベント。 和紙を使ったワークショップ。
七五三&日本文化交流	2024年 11月4日	米海兵隊岩国航空基地	基地内の子供向けに実施される縁日、着物 体験イベント。
PLAT ABC Afternoon Concert Kagura ～神楽パ フォーマンス～	2024年 11月17日	Plat ABC	大竹市の谷和（だにわ）神楽団による神楽 公演。外国人と感想を話し合い交流。
韓国語語学教室	2024年 11月30日	周南公立大学	韓国からの留学生による、韓国語講座と交 流会。
日米親善リレーマラ ソン2024 in 岩国	2024年 12月1日	55FIELD	チームを組み、たすきを繋いでマラソンを 実施。外国人との混合チームを結成。仮装 した外国人チームとの交流など。
Holiday Tree Lighting	2024年 12月7日	米海兵隊岩国航空基地	基地で行われるクリスマスツリー点灯式。 屋台や出し物も実施され、基地に居住して いる外国人と交流。
岩工祭	2024年 12月13日	岩国工業高等学校	米軍基地内に暮らす生徒を文化祭に招いて、 磁石で動くコマ作り、シャボン玉作りなど で交流する。
国際交流CAFE	2024年 12月14日	Plat ABC	ゲームやクイズを通じた基地ボランティア との交流会。
外国人実習生との餅 つき大会	2024年 12月28日	株式会社タカヅキ事務所	ベトナム人実習生との交流イベント。 日本文化である餅つきを通して交流。
ALTとの交流	参加者によ る	各中学校・高等学校	自分の好きな話題でALTと交流。（海外に 行った時の注意点、ハワイ出身のALTへの 質問、出身国・地域でのイベントについて など）



Plat ABC イベントスケ
ジュール



The TEENS IMPACT 2024 ～日米交流KIZUNA
フェスティバル～ にて

(4) ローカル探究プログラム

①目的

- 地域のグローバル人材による講演や講師とのディスカッションを通して、地域の課題を発見し、その解決に向けて行動する意識を育む。

②プログラム概要

日時	令和6年（2024年）9月21日（土） 10:10～16:15
場所	シンフォニア岩国 大会議室
参加人数	92名 ※周防大島高校2年生は別途「総合的な探究の時間」で実施
活動単位	●基本的にグループ単位で活動（1グループ10名程度） ●各グループにそれぞれ山口県立大学生1名がメンターとして参加
プログラムの進め方	●アクティブ・ラーニングの手法を用いて自調自考を促す。 ●座学以外にグループワーク、ワークショップ、ゲーム、発表など、グループメンバーと協力しながら主体的に考えて行動する体験型プログラムを多く取り入れることで、コミュニケーション力、リーダーシップの向上をめざす。 ●「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域社会で行動できる）」人材と身近に接することで、世界と日本のつながり、地域への貢献などを考える機会とする。

③プログラムの内容

1. オリエンテーション（10:10～10:20）

講師：友成 諒宜 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 事業全体の目的と5つのプログラム、「グローバル」「ローカル」「グローカル」それぞれの考え方についての振り返りを踏まえて、本日のプログラムの位置づけや目的の確認があった。

2. 世界を知って地域で活躍 ～山口県のグローバル人材～（10:20～12:10）

<1>【講演】台湾での日本語TA経験

講師：白神 杏花 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科実習助手）

- 高校生の頃にカナダに短期で行った経験もあり、大学生の時に日本語TAとして留学することを計画していたが、コロナ禍の影響により予定通りに事が進まずに悩んでいた。そんなとき絵本の一節がきっかけで、台湾に日本語TAとして2か月間行くことを決意。現在はその経験から、山口県立大学で実習助手を務める傍ら、登録日本語教員の資格取得へ向け勉強中。

- 台湾では目標意識を持つことを大事にしながら、課題解決に対して主体的・対話的に行動するように心がけたことを、具体的なエピソードとともに語った。
- 「苦手意識がある“話せない自分”に慣れないでほしい」、「国際的な感覚や広い視野を培い、広めていってほしい」といったメッセージがあった。

＜2＞【講演】ビショップス大学（カナダ）での留学経験

講師：増野 晃 氏（山口県立大学国際文化学部国際文化学科4年生）

- 8か月間、カナダケベック州に留学。現在、山口県立大学国際文化学部に在学中。
- 大学2年生のとき、大学生メンターとして本事業を経験。より生徒に身近な存在として、失敗談も交えてハワイでの具体的なエピソードを語った。
- 小さな成功体験が積み重なって大きな自信になるので、「目標を決めて海外での成功体験を積んで欲しい」といったメッセージがあった。

＜3＞【グループワーク】講師の先生方に質問

- 講演を聞いている間に感じた疑問などを各自付箋に書き、グループ内で模造紙に貼り出して共有。その後、各グループひとつずつ質問を選んで講師の方々に質問した。
- 「海外に行った経験により、どのような能力を一番伸ばすことができたか」、「“話せない自分”に慣れないように心がけていたことは」、「行く前にやっておいた方がいいこと・やっておけばよかったこと」、「留学を通して日本の生活に活かしたことは」などの質問が挙げられた。

3. 【講義・ワークショップ】ハワイと日系移民の歴史（13:00～14:30）

講師：芹澤 隆道 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科講師）

- アメリカによる支配を受けたハワイ、フィリピン、日本が共有している歴史について比較考察。資料に書かれていないこと、語られてこなかったことにフォーカスして、想像することの大切さを学んだ。
- その後、国境で括られた枠組みでは理解できない＜共有された歴史＞を学ぶことの意味、自立と依存、戦争と平和は果たして対義語なのかといったテーマ例を参考にしながら各グループでディスカッションを行い、発表した。



白神杏花 先生



増野晃 氏



質問に答える二人



芹澤隆道 先生

4. 【グループワーク】山口クイズ (14:40～14:55)

- 山口県立大学の学生が考えた山口県に関するクイズ15問にグループ対抗で答え、正解数の多いチームには賞品が渡された。

5. 【グループワーク】英語で自己紹介 (14:55～15:10)

講師：岩中 貴裕 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授）

- 各自が準備してきた英語での自己紹介（Three Words that Describe Me）を、グループ内で相互に行った。

6. グローバル探究プログラム参加ガイダンス (15:10～15:40)

講師：横田 有紀 氏（株式会社エイチ・アイ・エス）

- パスポート取得等の事前準備とともに、海外旅行のための伺い書兼申込書、ESTA登録質問書、未成年渡航同意書といった必要書類について説明した。
- ハワイ訪問について、行程や利用航空会社、滞在ホテル、自主研修時のオプションツアー、その他海外傷害保険やスーツケース、両替等の事前情報を提供した。

7. 振り返り、事後課題説明 (15:40～15:50)

講師：岩中 貴裕 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授）

- 本日の学びを振り返った。
- 課題と提出方法についての説明があった。

8. オンライン英会話の登録・受講について (15:50～16:15)

※「語学コース」参加者

講師：平柳 叶恵 氏（DMM英会話）

- オンライン英会話の登録・受講方法について説明があった。
- 継続的に取り組む上でのポイントについて説明があった。



大学生メンターによる山口クイズ



グループで山口クイズに挑戦



「英語で自己紹介」の説明の様子



会場の風景



平柳叶恵 氏

(5) グローカル・ラボ

①目的

- 全ての研修内容を繋ぎ、国際的な視野を地域に活かす視点を育む場とする。
- 各プログラムでの学びにより獲得した地域規模・国際的（グローバル）な視点を、地域社会の課題解決に向けてローカライズする能力を育成し、グローバル人材の総合的な育成を図る。

②プログラム概要

日程	第1回：令和6年（2024年） 7月20日（土） 10:00～16:15 第2回：令和6年（2024年）12月 7日（土） 10:00～16:15 第3回：令和7年（2025年） 2月 1日（土） 10:00～13:00
場所	第1回：シンフォニア岩国 大会議室 第2回：岩国国際観光ホテル 錦雲閣 第3回：岩国国際観光ホテル ロイヤルホール
参加人数	第1回：85名 第2回：94名 第3回：63名 ※ 周防大島高校2年生は別途「総合的な探究の時間」で実施
活動単位	●基本的にグループ単位で活動（1グループ10名程度） ●各グループにそれぞれ山口県立大学生1名がメンターとして参加 ●グループメンバー及び担当の県大生メンターは事業当初に決定し、グローバル探究プログラムも含めすべて同一のメンバーで実施
プログラムの進め方	●アクティブ・ラーニングの手法を用いて自調自考を促す。 ●座学以外にグループワーク、ワークショップ、ゲーム、発表など、グループメンバーと協力しながら主体的に考えて行動する体験型プログラムを多く取り入れることで、コミュニケーション力、物おじせず行動する力などの獲得をめざす。 ●プログラム全体のテーマを「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域社会で行動できる）」とし、最終回に自らの決意を表明する。

③スケジュールと講義内容

	第1回	第2回	第3回
テーマ	グローバル人材とは	ハワイを知ろう	地域で活かそう
10:00	開講式 オリエンテーション	オリエンテーション 【グループワーク】 ハワイ事前学習の成果共有	オリエンテーション ハワイ研修の振り返り 事業全体の振り返り
11:00	【チームビルディング】 ①自己紹介 ②グループ名決定 ③交流活動	【ワークショップ】 ハワイからのオンライン中継	【ワークショップ】 成果の共有
12:00	昼食	昼食	成果発表
13:00	【講義・ワークショップ】 Differences Between Japanese and American Culture	【講義・ワークショップ】 山口とハワイのつながり	修了証授与 1年間の総括 閉会行事
14:00		グローバル探究プログラムに向けて	
15:00	事業参加の心構え 各プログラム内容 及び参加方法 デジタルポートフォリオの 使い方 振り返り・事後課題説明	振り返り、修了レポート・ アンケートについて	

⑤各回の報告

第1回グローバル・ラボ

日時	: 令和6年（2024年）7月20日（土）
会場	: シンフォニア岩国 大会議室
テーマ	: グローカル人材とは
主な目的	: ①本事業全体の目的、内容、進め方を理解する ②「グローバル人材」について理解する ③グループメンバーや県大生メンターとのコミュニケーションを深める

1. 開講式（10:30～10:40）

講師：佐貫 誠 教育調整監（山口県教育庁高校教育課）

【挨拶の主旨】

- ◇本事業は地球規模で考え、地域社会で活かしてほしいという狙いをもった事業である。グローバル人材として活躍するためには、多様な背景を持つ人と出会って、様々な体験を通して、積極的に行動を起こすことが重要。本事業に応募した時点で、すでに自らの意志で行動を起こし、一步を踏み出し始めたと言える。
- ◇この場にいるのは同じ志を持った仲間。これから不安を感じることもあるかもしれないが、繋がりを大切にし、自信をもって取り組んでほしい。
- ◇本事業を通して、自分の中にあるパワー、ポテンシャルを発揮して、力強く未来のグローバル人材として歩んでいくことを期待する。

2. オリエンテーション（10:40～11:15）

<1> グローカル人材とは

講師：岩中 貴裕 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授）

- グローバルという言葉の意味、グローバル人材とは何かについての説明があった。
- グローバル人材の持つ5つの特徴の一つに「多言語でのコミュニケーション能力」があるが、言語能力が高いことよりも、言語能力が限られていても様々な手段を駆使してコミュニケーションを取ろうとする態度が大切であるとの話があった。

<2> 本事業について

講師：友成 諒宜 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 本事業の目的は「Think Globally, Act Locally（地球規模で考え、地域社会で行動できる）」人材の育成にある。この言葉を合言葉に今後取り組んでほしいとの話があった。
- グローバル人材に求められる能力、その育成に向けた本事業全体のプログラム、年間を通じたスケジュール、ルールやマナーなどについての説明があった。

3. チームビルディング（11:15～12:20）

講師：岩中 貴裕 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授）

<1> 自己紹介

- 自分が呼んでもらいたい名前で名札づくりを行った。
- グループ内で自己紹介した。

<2> グループ名決定

- グループ名をチーム内で相談して決定した。

<3> 交流活動

- 10名のグループを2つに分け、全20グループ対抗でゲームを行った。
- 優勝したチームには賞品が渡された。

4. 【講演・ワークショップ】 Differences Between Japanese and American Culture（13:20～14:50）

講師：スワンソン・マーク 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科准教授）

- グループ内で「名前」、「山口のお気に入りの場所」、「山口の好きな食べ物やスイーツ」を英語で発表した。
- 「アメリカの文化を鏡にして、自分の文化（日本文化や地域文化）について考えよう！」というテーマで、課題に取り組みながら日本人の特徴などを考察。文化には「見える部分」と「見えない部分（文化的なルールやコミュニケーションスタイルなど）」があることを学んだ。
- その後、異文化間コミュニケーションを成功させる鍵や効果的な英語学習の方法についてアドバイスがあった。

5. 事業に参加するにあたっての心構え（15:00～15:05）

講師：岩中 貴裕 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授）

- 本事業への心構えとして「目的意識を持つこと」、「課題に対して主体的、対話的に取り組むこと」、「他の参加者は互いに高め合う仲間こと」、「困ったときは仲間を頼ること」、「困っている仲間を助けること」などについて話があった。
- 成功者であり続けることは不可能。「成長者であり続けること」が大切である、との話があった。

6. 各プログラム内容および参加方法（15:05～15:25）

講師：友成 諒宜 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 語学力育成プログラム（オンライン英会話）、グローバル探究プログラム（ハワイ研修）、国際交流体験プログラム（外国人との交流等）について説明があった。
- 国際交流体験プログラムについて、申込みや実施の方法、ルール・マナー、参加後のレポート提出方法やグループ内での体験共有などについて説明があった。その後、今後参加可能な国際交流イベントを示して、積極的な参加を促した。

7. デジタルポートフォリオの使い方 (15:25~15:40)

講師：音光 慧 氏 (株式会社エイチ・アイ・エス)

- 課題やレポートなどの提出、連絡事項の共有、講義内容のアーカイブ等を目的としてデジタルポートフォリオを活用すること、また、その登録方法や使い方などについて説明があった。

8. 振り返り、事後課題説明 (15:40~16:00)

講師：岩中 貴裕 先生 (山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授)

- 本日の学びを振り返った。
- 事後課題とその提出方法についての説明があった。



開講挨拶 (佐貫誠 教育調整監)



日米の文化比較 (スワンソン・マーク先生)



交流活動：わっかを作ろう



交流活動：わっかを作ろう (表彰の様子)



会場の雰囲気



グローバル・ラボについて
(岩中貴裕先生)



事業概要について
(友成諒宜指導主事)

第2回グローバル・ラボ

日時	: 令和6年（2024年）12月7日（土）
会場	: 岩国国際観光ホテル 錦雲閣
テーマ	: ハワイを知ろう
主な目的	: ①ハワイの概要を知る ②ハワイオリジナルのSDGsプログラムである「アロハプラスチャレンジ」の具体的な取組を学ぶ ③山口県とハワイのつながりを知る

1. オリエンテーション（10:00～10:05）

講師：友成 諒宜 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 年間スケジュールを確認しながら、本日の活動についての内容説明、趣旨、目標などの説明があった。

2. 【グループワーク】ハワイ事前学習の成果共有（10:05～10:20）

講師：岩中 貴裕 先生（山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授）

- 各自が事前に取り組んだ「ハワイに関するテーマ学習」について、グループ内で共有した。情報共有だけではなく、仲間意識を高めることが大切という目標をもってグループワークに取り組んだ。
- グループで共有した後は、有志の生徒が「ハワイで見られる珍しい現象」、「ハワイならではの食用魚とその調理法」について全体に発表を行った。

3. 【ワークショップ】ハワイからのオンライン中継（10:20～11:45）

講師：タカシマ アモン 氏（株式会社エイチ・アイ・エス）

- ワイキキからの生中継で、現在のハワイの風景や空気感を実感した。
- 1月のグローバル探究プログラム（ハワイ研修）に向けて、おすすめスポットやグルメ、役立つ情報、注意事項について説明があった。
- ワイキキの成り立ちや、アラワイ運河の歴史と環境汚染に関する問題点などについての解説を聞いた。また、元気玉プロジェクトについて、実演映像を見ながらSDGsの取組について学んだ。
- ハワイからの中継映像を見て、疑問点やハワイについて気になっていることをグループごとに話し合った。
- グループごとに講師に質問をして、現地とリアルタイムで相互にやり取りを行った。チップの相場や物価、現地で使えるハワイ語、元気玉以外の水質浄化への取組などについての質問があった。



オリエンテーション（友成諒宜指導主事）



事前学習の発表



ハワイからの中継（アモン氏）

4. 【講義・ワークショップ】山口とハワイのつながり（12:35～14:05）

講師：浅沼 正和 氏

（ハワイ州観光局公式アロハプログラムキュレーター）

- 日本からハワイへの移民の歴史についての説明があった。官約移民として山口・広島から多くの人々がハワイへ渡った背景、移住した後の写真花嫁の制度、真珠湾攻撃により敵性外国人とみなされた歴史、日系人の活躍などについて学んだ。
- 説明を聞いて、疑問点やハワイについて気になっていることをグループごとに話し合い、講師に質問をした。日本からハワイに持ち込まれた文化や建築物、終戦後の人権回復、フラが禁止された背景などについての質問があった。



山口とハワイのつながり（浅沼正和氏）

5. グローバル探究プログラムに向けて（14:15～15:30）

講師：横田 有紀 氏（株式会社エイチ・アイ・エス）

- グローバル探究プログラム（ハワイ研修）について、行程や事前準備、留意点などについて直前レクチャーを行った。
- 事後課題の内容と提出方法について説明を行った。



会場の風景

6. 修了レポート・アンケートについて（15:30～15:50）

講師：友成 諒宜 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 修了レポート、アンケート調査の提出について説明があった。
- ホテル・部屋割りの説明、体調管理の徹底、国際交流体験プログラム、語学力育成プログラム（オンライン英会話）、第3回グローバル・ラボ等について確認した。

第3回グローバル・ラボ

- 日時 : 令和7年(2025年)2月1日(土)
- 会場 : 岩国国際観光ホテル ロイヤルホール
- テーマ : 地域で活かそう
- 主な目的 : ①グローバル探究プログラムを振り返る
②この1年間の学びを振り返り、プログラムの修了とする

1. オリエンテーション(10:00~10:10)

講師: 友成 諒宜 指導主事(山口県教育庁高校教育課)

- 本日のプログラムについての内容説明、趣旨、スケジュールなどの説明があった。

2. ハワイ研修の振り返り(10:10~10:25)

講師: 友成 諒宜 指導主事(山口県教育庁高校教育課)

- ハワイ研修の写真をしながら、グローバル探究プログラムを振り返った。グループ・高校ごとに異なるプログラムの様子も共有された。

3. 事業全体の振り返り(10:25~10:55)

<1> 振り返り

講師: 岩中 貴裕 先生(山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授)

- 成長する人が持っている特徴として、「メタ認知能力が高いこと」と「難しい問題にチャレンジすること」についての話があり、それぞれPDCA、growth zone、ZPD(発達の最近接領域)の一例を挙げて説明があった。
- 第3回グローバル・ラボに参加できなかった実習助手の白神先生、県大生メンターからのビデオメッセージを放映した。

<2>【グループワーク】成果の共有(10:55~11:25)

講師: 岩中 貴裕 先生(山口県立大学国際文化学部国際文化学科教授)

- グループで内で事前準備した「修了レポート」を用いて成果共有を行い、各自の行動宣言を発表した。それぞれ準備してきたものをそのまま読むのではなく、前半の振り返りで共有された内容を踏まえた上で、アレンジして発表した。
- 「グローバル人材とは何か」をあらためて確認するとともに、郷土に対する誇り・愛着をもってほしいというメッセージがあった。

4. 成果発表(11:35~12:05)

講師: 友成 諒宜 指導主事(山口県教育庁高校教育課)

- 語学力育成プログラムの参加者1名、国際交流体験プログラムの参加者6名から、各自の取組について成果発表があった。また、有志3名から、修了レポートを基に行動宣言の発表があった。

5. 修了証授与(12:05~12:10)

- 山口県教育庁高校教育課 中野聡課長より、これまでの学びの証として、代表者に修了証が授与された。
(他の参加者には別途手交された)

6. 1年間の総括（12:10～12:15）

講師：中野 聡 課長（山口県教育庁高校教育課）

【挨拶の主旨】

- ◇最初は全く知らない人たちも多くいたであろうが、プログラムを通じて、互いに対する理解や信頼が徐々に深まり、心の距離が近くなっていたのではないかと思います。様々な国内プログラムや海外研修を終えた今、皆さんがもつ可能性はさらに大きく膨らんでいると思う。
- ◇皆さんの修了レポートには、本事業に参加することで「多様性を理解し、異なる他者と協働して生きていくこと」、「言語や文化の違いを超え、人間同士のつながりを尊重していくこと」などが書かれており、とても大切なことを学び取っていることが感じられた。
- ◇これからの社会では、「グローバルな立場から社会の持続的な発展を生み出す人材」、「グローバルな視点をもって、地域社会の活性化を担う人材」が強く求められる。この事業に参加した皆さんが、将来皆さんの住む地域や山口県、そして世界において活躍する姿を見る日を心から楽しみにしている。

7. 閉会行事（12:15～12:30）

講師：友成 諒宜 指導主事（山口県教育庁高校教育課）

- 本事業の関係者がそれぞれ参加者にメッセージを伝え、閉会した。



ハワイ研修の振り返り（友成諒宜指導主事）



1年間の振り返り（岩中貴裕先生）



成果発表の様子



修了証授与



1年間の総括（中野聡課長）

5 修了レポート・修了証・参加証

- 参加者は1年間の全プログラムの学びを振り返り、今後にどのように活かしていくのかをまとめた修了レポートを提出した（別冊参照）。
- 参加者全員に修了証又は参加証が授与された。修了証は全てのプログラムに参加し、各プログラムの課題および修了レポートを期限内に提出した参加者に授与された。

令和6年度東部地域グローバル人材育成事業 修了レポート

■国内でのプログラムで心に残ったこと・学び

ハワイの人たちに見せるスライドを作ったり動画を撮ったりしたことです。ランダムに組まれた班でいきなり作れと言われたときは驚きましたが、班長として役割分担をしてみんなで満足のいくものができてよかったです。ハワイの学校とオンラインでミーティングしたとき日本語で質問をたくさんしてくれたことが心に残りスライド制作に身が入りました。

■海外でのプログラムで心に残ったこと・学び

入国審査に際するいろいろなところで日本語があったことに驚きました。日本語でしゃべりかけてくれる人もいて自分ももっと英語を勉強したくなりました。

観光が盛んな場所なので正直土地が汚れているのかと思っていました。しかしそんなことはなく海岸沿いに多くのゴミ箱が設置されていたり、ゴミを拾う人たちがたくさんいてくれたりするおかげできれいな街だなと感じることができました。ハワイではタンブラーを持ち歩くのが当たり前になっていて環境にも優しいなと思いました。

■今後、この経験や学びをどのように活かしていきたいか

行動宣言: やってみよう

<そのように考える理由や、行動の具体的な内容など>

英語がうまくしゃべれなくてもあきらめて日本語を使うのではなく調べてみるのが大切だなと感じた。怖がらずやってみることも大事。

自分から行動しなければいけない時や、周りに頼れない場面が多々あったからこそ学べることや強い意志がわきました。

— 思い出のトピック —

ご飯



景色





令和6年度東部地域グローバル人材育成事業 修了レポート

■国内でのプログラムで心に残ったこと・学び

- ・留学生の方から実際に留学に何があった話を聞いて、留学することで自分の可能性を広げることができるといことが分かった。
- ・オンライン英会話をやり、英語の練習をたくさんすることができ、正しい発音を知ることができた。

■海外でのプログラムで心に残ったこと・学び

- ・カンニ高校の生徒たちと交流して、日本語を上手に話せる人が多かったのがびっくりした。自分も英語を上手に話せるようになりたいという気持ちになった。
- ・ホノロア空港で、ハワイのいろいろな場所を歩いてハワイの交通ルールやハワイのビズの現状について知ることができた。

■今後、この経験や学びをどのように活かしていきたいか

行動宣言: 今後以上に英語に興味を持ち、英語の勉強をがんばる

<そのように考える理由や、行動の具体的な内容など>

もっと英語が話せるように外国人と話せる機会を多くとりたいなという思いから、新・英検準1級と合格できるようにがんばりたいです。

具体的にがんばることは、自分の英単語を覚えて使える言葉を増やしていくことです。YouTubeなどで英語を聴いて英語を覚えることにしたい。

— 思い出のトピック —

Hawaii

和は、4日目の自由行動の日が印象的でした。ハワイの美しい景色に行ったり、ハワイの有名な観光地に行ったり、アロハモアビーチで泳いだり、ハワイで有名な食べ物を食べたりしました。初めて食べたハワイの食べ物はどれもおいしかったです。食べる機会があれば食べたいです。ハワイの言葉は、日本語と違ってハワイらしいものがありました。木々の石像にとてもびっくりしました。ハワイらしいお土産を買っていました。

今日のハワイ研修を通して、普段できない体験ができて、思い出に残っています。4日目の自由行動もとても楽しかったです。

とてもいい思い出です。

日本とは違うハワイの風景です。



6 事業実施体制

(1) 産官学連携による事業実施

- 本事業は、県東部地域の県立学校、防衛省及び岩国基地等の協力と、山口県、岩国市、周防大島町、和木町、山口県立大学、事業者、そしてハワイ州教育局、カウアイ郡、ハワイの山口県人会、その他多くの関係機関を含めた国際的な産官学連携により実施された。
- 山口県立大学はグローバル・ラボをはじめとする研修プログラムの企画・運営、学生メンター及びグローバル・ラボやローカル探究プログラムへの講師派遣、ハワイでの体験プログラム事業者はグローバル・ラボの講師としても協力するなど、相互にプログラムを越えて人材育成に向けて効果的かつ効率的に連携した。

(2) 山口県立大学の学生メンターの協力

- 各グループに1名ずつ参加した県大生メンターは、グローバル・ラボ、グローバル探究プログラムを中心に参加者を支援した。
- 今年度も、参加者が提出した事後課題へのフィードバックを担当するなど事業運営にも積極的に関与した。各グループのリーダー及びファシリテーターとして参加者と深い信頼関係を築き、日常的にも相談に乗るなど、良き先輩として慕われるとともに、身近なロールモデルとしても大きな役割を果たした。

(3) デジタルポートフォリオの活用

- 本事業における課題やレポートの提出、連絡事項の共有、講義内容のアーカイブ等を目的として、今年度もデジタルポートフォリオを活用した。
- 参加者それぞれにIDとパスワードを割り当て、各自がログインして課題を提出したり自分宛ての連絡を見たりすることができる。また、各プログラムの記録映像、当日配布資料などがアップされ、いつでもプログラムを振り返ることができるようにした。
- 参加者が提出した課題に対しては、県大生メンターからフィードバックを行った。

東部地域グローバル人材育成事業アンケート【提出期限：2025年1月26日(日)】	回答する
修了レポート【提出期限：2025年1月26日(日)】	回答する
第2回グローバル・ラボ事後課題【提出期限：2024年12月23日(月)】	回答する
ローカル探究プログラム	回答する
国際交流体験プログラム【2回目（国際交流コースのみ）】	回答する
国際交流体験プログラム【1回目】	提出内容・コメント確認
第1回グローバルラボ事後課題	提出内容・コメント確認

提出方法

本課題はオンラインで実施します。提出期限までに提出してください。

登録済みとして提出する

ログインして提出する

今日の振り返り

今日の振り返り

ハワイに関するアンケート

本アンケートは、ハワイ州教育局、カウアイ郡、ハワイの山口県人会、その他多くの関係機関を含めた国際的な産官学連携により実施された。

7 参加者アンケート

(1) 調査概要

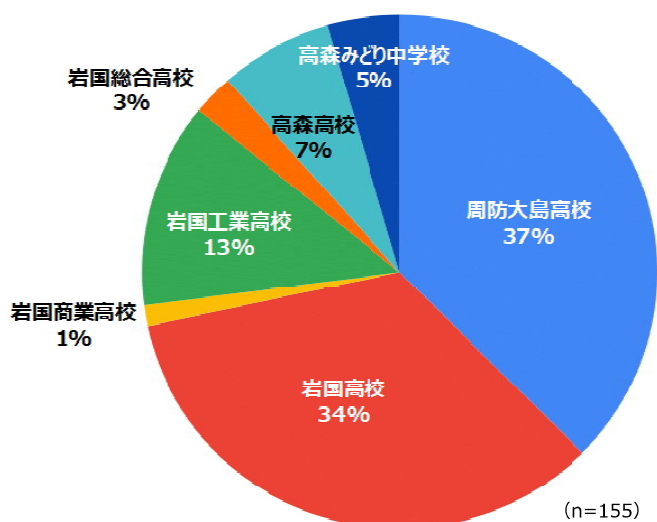
調査手法	WEBアンケート調査
調査時期	令和7年（2025年）1月20日～1月26日

<調査結果表記上の注意>

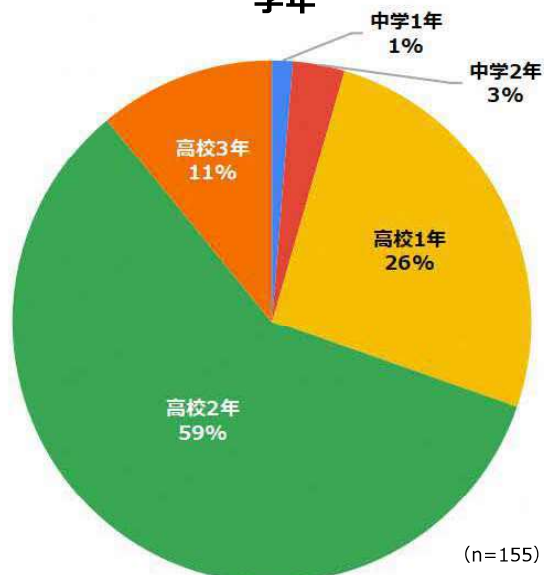
- ・図表内の比率を示す数値は全て百分率（％）で表し、小数第2位を四捨五入してあるため、その合計数値は必ずしも100にはならない。
- ・複数回答については、回答項目ごとに母数に対する比率を算出しているため、その合計数値は必ずしも100にはならない。
- ・無回答、無効回答は除いて集計しているため、サンプル数は設問により異なる。
- ・本文及び図表において、調査票の選択肢内容を一部簡易表記した。

(2) 回答者の属性

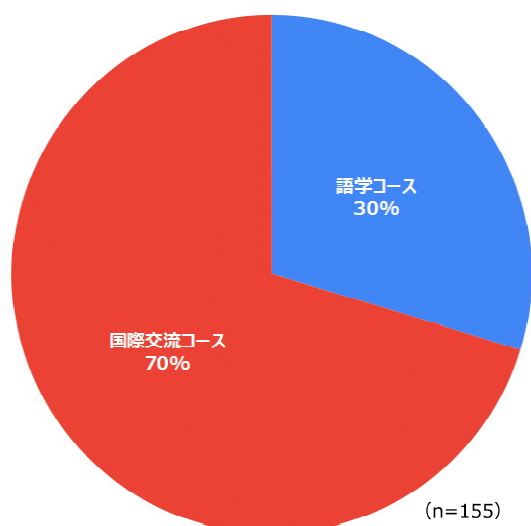
学校名



学年

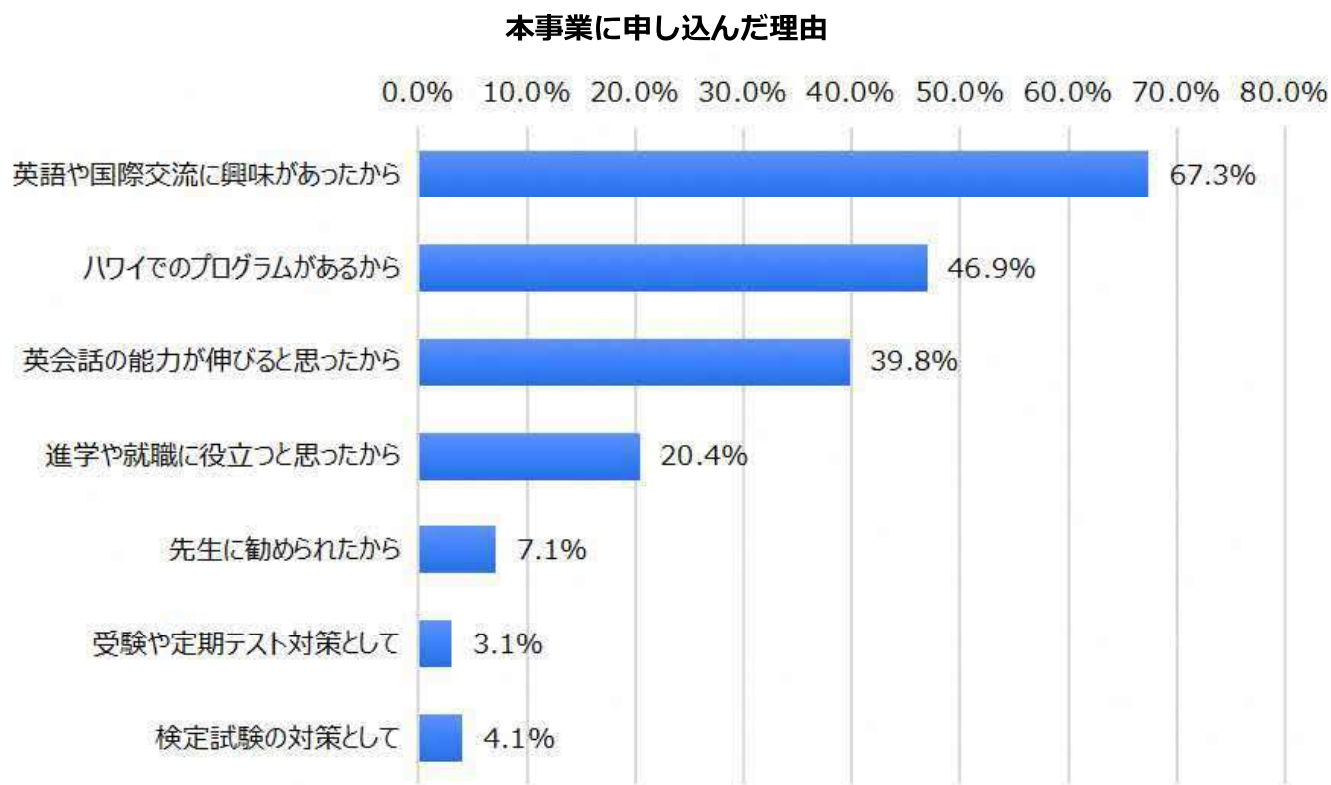


コース



(3) 本事業に申し込んだ理由

- 本事業に申し込んだ理由については、67.3%が「英語や国際交流に興味があったから」を挙げ、次いで「ハワイでのプログラムがあるから」(46.9%)、「英会話の能力が伸びると思ったから」(39.8%)が続いている。国際交流への興味関心と英語力の伸びへの期待が、本事業申し込みの大きなきっかけとなっていることが分かる。
- 前年度も同様の質問を行っているが、上記3点については、今年度と前年度で大きな差はない。しかし、今年度、「先生に勧められたから」を理由に挙げた参加者の割合は7.1%であり、前年度の27.0%から大きく低下した。事業が3年目に入り、事業そのものに対する認知が高まっているものと思われる。

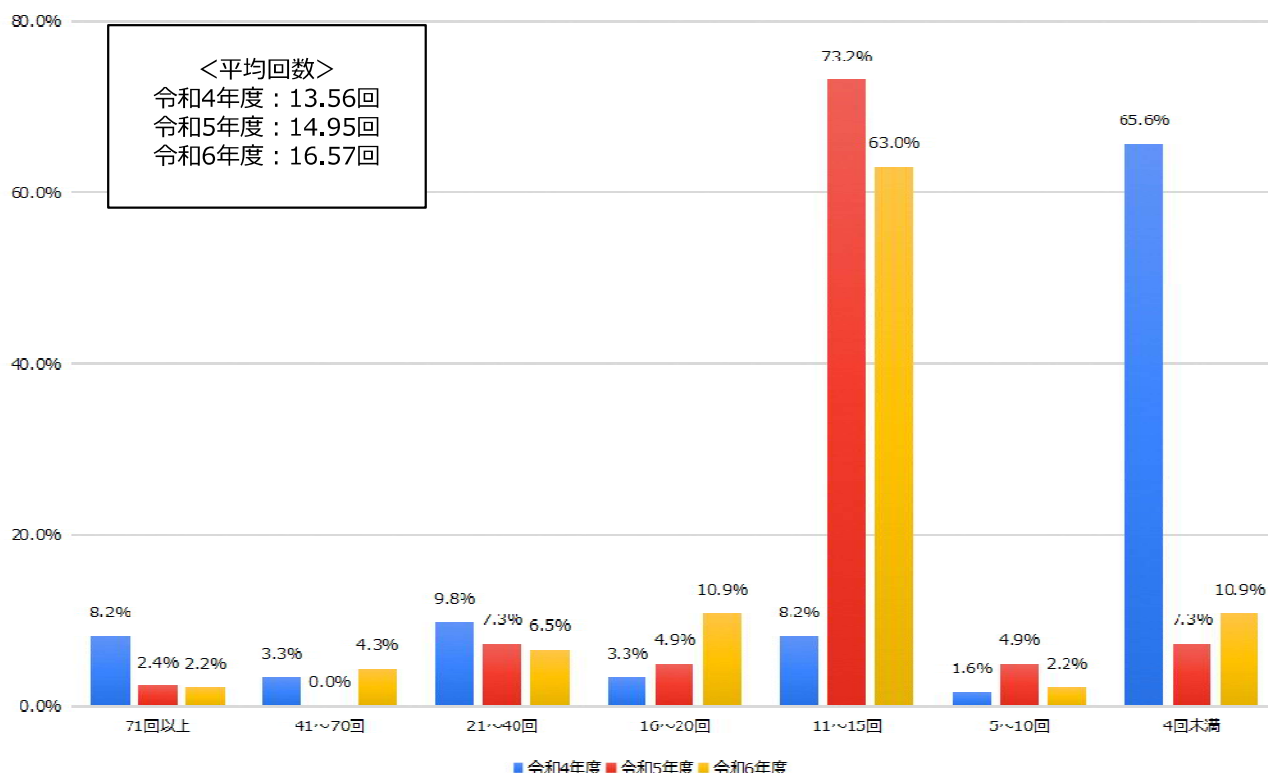


(n=98)

(4) 語学力育成プログラム（※語学コースのみ）

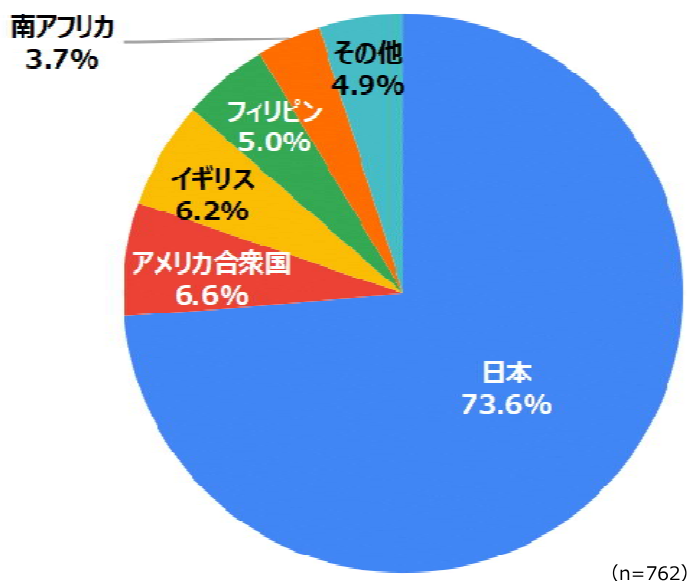
- 10月1日～12月31日の3か月間を通じたオンライン英会話の受講回数は、受講者平均で16.57回であった。昨年度の14.95回から約1.6回程度増えており、日本人講師を含む幅広く選択できる講師、受講前の登録サポート、受講状況に応じたフォローなどの効果があったと思われる。
- 今年度も9割近くの生徒が11回以上受講しており、積極的な姿勢がみられた。41回以上の非常に熱心に受講した生徒は6.5%と前年度よりも増加した。（最高受講回数は85回）
- 一方で、受講回数が4回未満の生徒が10.9%おり、受講の心理的ハードルを下げる、参加意識の高揚を図るなど、フォロー体制の確立が必要である。

オンライン英会話の受講回数



講師の国籍

- 前年度までは日本人講師を含まないプランであったが、今年度の取組として、ネイティブ講師に加えて日本人講師も選択できるようにした。このことが、受講回数の増加につながったと考える。
- 今年度の受講において、講師の国籍は日本が73.6%を占めた。次いで、アメリカ合衆国（6.6%）、イギリス（6.2%）、フィリピン（5.0%）、南アフリカ（3.7%）と続いた。その他にはカナダ、パキスタン、アイルランド、インドネシア等23の国・地域が含まれる。
- 今後は、日本人講師との英会話経験で自信をつけさせながら、ネイティブ講師との会話につなげていくための働きかけを行っていく必要がある。



■受講期間中の感想

- 今まで自分は日常会話くらいならスムーズにできるだろうと思っていたが、案外知らない表現もあって、講師の先生にたくさん自分から質問をした。
- 受講していくにつれて自分の英語力が上がっていったり、積極性が強くなっていったりしていることを実感しました。やりがいも凄くありましたが、英会話を受講することが初めてだったので、とても緊張したし、不安もありました。だけど、最後まで計画的に頑張れたのでよかったと思います。
- 毎日楽しんで続けられた。
- オンライン英会話を通して、様々な外国人の方のレッスンを受け英語の聞き取りに慣れて会話がよりスムーズになった。遅い時間でも受講できて予約が取りやすかった。
- 日本の講師の方、海外の講師の方両方と英会話をしましたが、どちらとも優しく教えてくださって緊張していたのが少しずつ減って、楽しくお話をできました。フィリピンの講師の方は日本の音楽に興味を持ってくださっていて楽しく話せました。
- 自由な時間に好きな先生とお話しできるので取り組みやすかったです。回数を重ねるごとに頭の中で日本語に訳さなくてもすぐ理解して答えられるようになりました。
- もっと回数を積んで、外国の人とも会話すればよかった。でも、日本人で信頼できる、優しい人を見つけることができてよかった。
- 色々な講師の方とのオンラインレッスンを受けられるので、さまざまな地域の講師の人と話し、特にデイリーニュースのトピックでは、この地域特有のもの・ことを知ったり、意見を交換し合ったりできたので、語学力の向上のみならず得るものは多くあった。
- 初めはかなり不安で授業を受けない日が多かったけれど、何回も受けて丁寧に教えてくれたから、初めに比べて自信をもって英語を喋れるようになった。講師の先生が自分の趣味や得意なことを覚えてくれていた時はうれしくなった。
- 日本人講師で少しずつ慣れたらネイティブ講師のレッスンを受けるというスタイルがとれて、とても良かったと思う。
- 困ったことがあっても、チャット欄で会話ができて、焦らずに対応できて助かりました。英語も少しずつ自信がついてきてやってよかったと思いました。
- 英会話をすることで着実に英語力が身についているのを実感できてとても嬉しかった。

- 日本人講師の方と英会話を行いましたが、しっかりと自分の間違いなどを指摘していただいたので、とても良いプログラムだったと思います。

- 最初のうちは緊張しましたが、毎回違う先生と話すうちに、英語で自己紹介や会話するのもだんだんと慣れていきました。お気に入りの先生が3人ほどいて、その先生に担当してもらうことが多くなり、会話をするのも楽しみになりました。学校の英語の学習にも役立ち、やって良かったと思いました。

- 外国人の先生と沢山話す事ができました。毎回やる度に外国人と話せる内容が多くなりました。

■受講していて困ったこと

- 聞き取り能力がなくて、せっかくのお話があり理解できなかったのと、リアクションを返せなくて悔しかった。
- 回線が悪くてちゃんとレッスンを受けられない時があった。
- ネイティブの先生との授業がとても緊張しました。
- 海外の講師の方との英会話の際に1回目で聞き取れなかったときに、one more time please? と聞いて2回目を言うてくださってもまた聞き取れなかったときに、もう一度聞き直すのに抵抗があったりして大変でした。
- 外国人講師の時、わからないことを共有しようとしても伝わらなかった時があり、伝えることの難しさを知った。
- 日本語が話せない方と受講するとつまずくことが多かった。
- どのような物を選べばいいのかが分かりにくかった。
- 頭の中で話したいことは分かっているのに、それが言葉に出てこなかった。
- お気に入りの先生の予定に合わせて予約を入れ、毎日時間がバラバラなので、時間を勘違いして、受講できないことがありました。

(5) グローバル探究プログラム

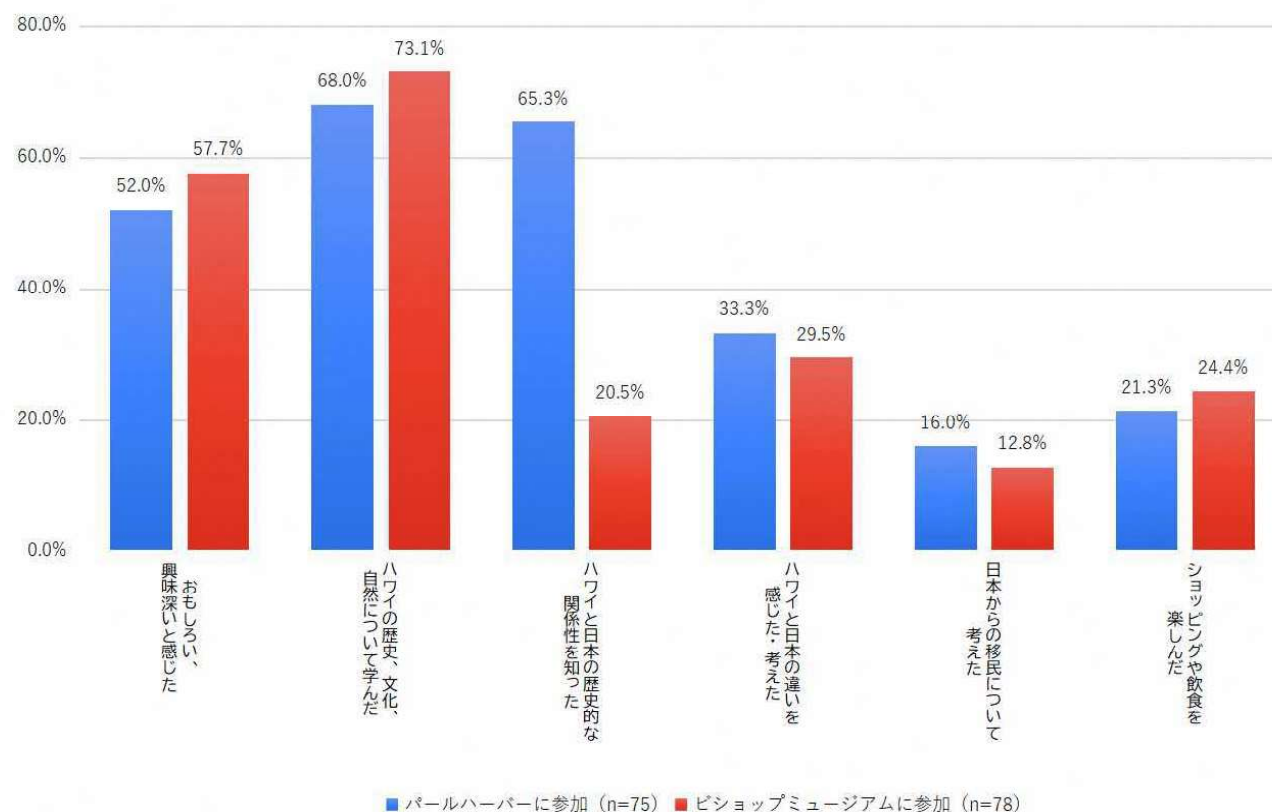
グローバル探究プログラムにおける各体験プログラムについて聞いた。

①フィールドワークプログラム＜1＞

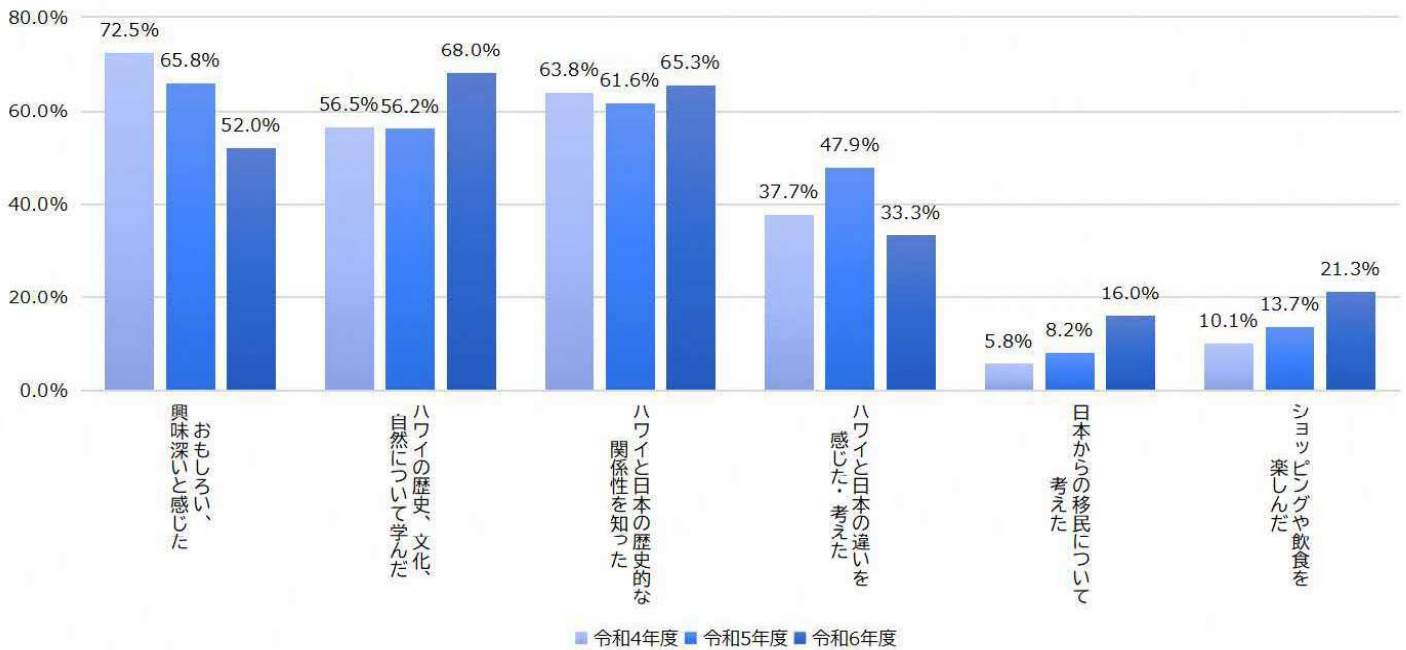
- 「パールハーバービジターセンター・戦艦ミズーリ記念館・太平洋航空博物館（以下「パールハーバー」）」と「ビショップミュージアム・オアフ島東部見学（以下「ビショップミュージアム」）」に分かれてのプログラム実施となった。
- パールハーバーは52.0%、ビショップミュージアムは57.7%と、両コースともに概ね5割程度が「おもしろい・興味深いと感じた」と回答した。
- パールハーバーでは第二次世界大戦関連の展示が多かったことから「ハワイと日本の歴史的な関係性を知った」（65.3%、対ビショップミュージアム+44.8ポイント）、「ハワイと日本の違いを感じた・考えた」（33.3%、対ビショップミュージアム+3.8ポイント）と、両国の関係性に関する回答が高くなった。
- 一方、ハワイに関する展示が豊富なビショップミュージアムは、「ハワイの歴史、文化、自然について学んだ」（73.1%、対パールハーバー+5.1ポイント）となっている。

フィールドワークプログラム＜1＞の感想（令和6年度）

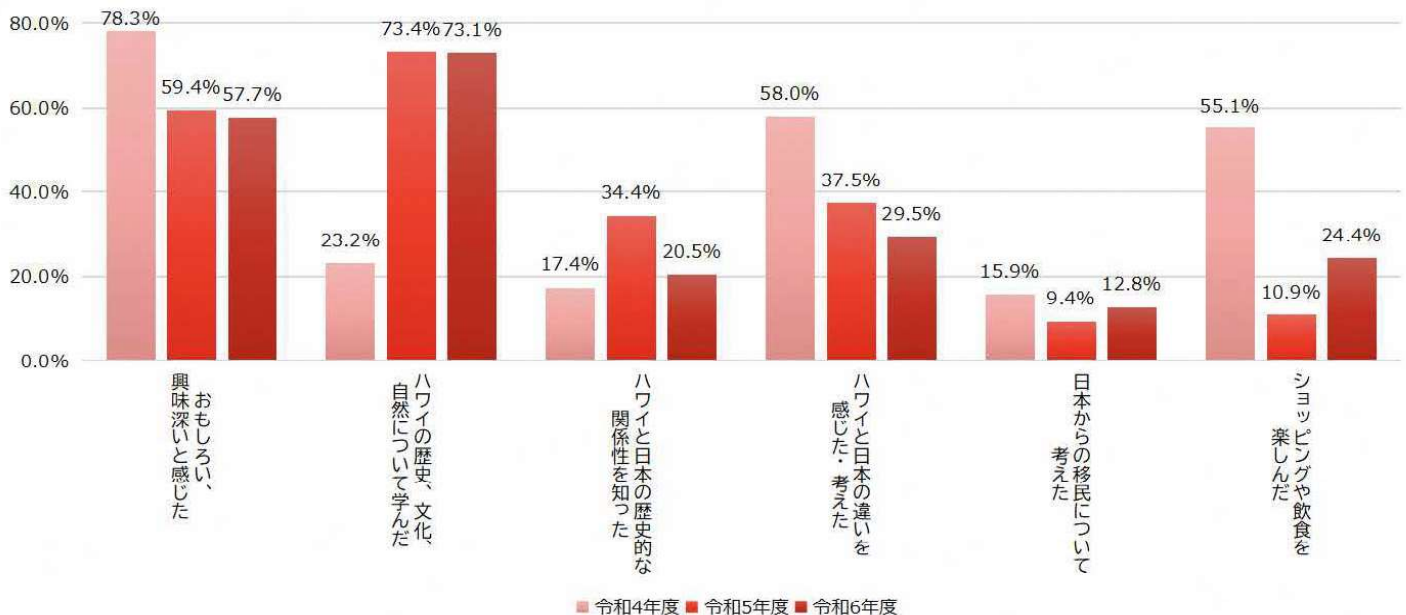
(n=153)



フィールドワークプログラム＜1＞の感想
(令和4年度/令和5年度/令和6年度：パールハーバー)



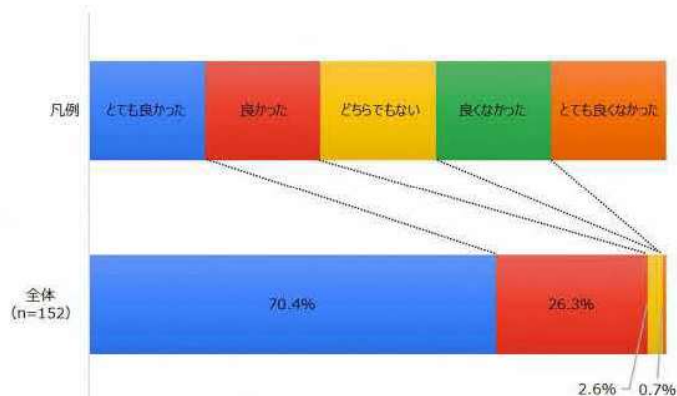
フィールドワークプログラム＜1＞の感想
(令和4年度：コーヒー園・ドールプランテーション/
令和5年度/令和6年度：ビショップミュージアム)



②ホロホロ・アドベンチャー

- 「ホロホロ・アドベンチャー」は、5段階評価で「とても良かった」と「良かった」の合計が96.7%と、大半の参加者が高く評価した。
- 「ハワイで最も良かったこと・心に残ったこと」（自由回答）に「ホロホロ・アドベンチャー」を挙げた参加者もみられ、参加者の多くにとって印象に残るプログラムとなった。
- 自由回答から「良かった理由」を見ると、「現地リーダー（親しみやすさ、英語が通じる経験）」「訪問先や街並み（建物や街並みからハワイならではの文化を感じた、有名な観光地ではないスポットを見学できた）」「公共バス利用（地元の人の普段の姿が見られる、乗り方が分かった）」「グループ活動（グループメンバーの結束力が高まった、一緒に活動して楽しかった、協力することの大切さを知った）」「アロハプラスチャレンジ（ハワイのSDGsの取組や社会問題を知ることができた、ビーチのごみ拾いでハワイのSDGsに貢献できた）」などが挙げられている。

ホロホロ・アドベンチャーの評価



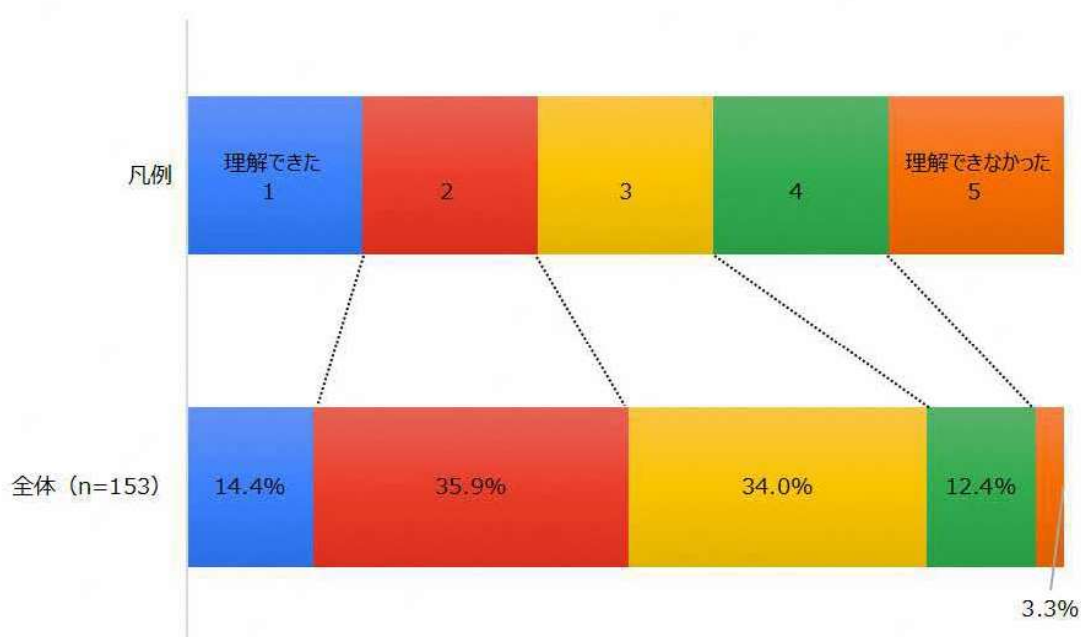
＜参加者の感想より＞

- ハワイの町中を実際に歩いたことで、ハワイの日常を肌で感じることができました。その他にも、バスでお金を払って乗ってみたいという思いはあったもののバスの乗り方が日本と逆だということを知りました。観光名所に行って、大学生の説明を聞いたり、クイズを解いたりしたことで、英語で話すという不安が減りました。
- ガイドの人がとてもやさしくて、フレンドリーで親しみやすかったので、自分たちもとても楽しく回ることができました。また、ハワイのいろいろな場所やバスにも乗れて、珍しい体験ができてよかったです。
- ホロホロアドベンチャーでは、班のみんなで、バスを使って移動したり、ドルを初めて使って買い物をしたり初めての経験を沢山した日でした。様々なミッションに取り組みながら、ハワイの有名な場所を巡ってハワイの文化を学ぶことができてとても楽しかったです。アラモアナビーチでの清掃では、思ったより、ビーチがきれいだと思いました。SDGsの学習もしっかりできました。国内プログラムでもハワイのごみ問題について調べていたので、少しでも関係する取り組みができてよかったです。
- ホロホロアドベンチャーでは日本語で話すことを禁止して英語だけで話すことを徹底しました。英文がしっかり作れていなくても単語を繋げたりジェスチャーで伝えることが分かりました。
- 様々なところを回ったり、現地リーダーの人と話をしたりし、ミッションをこなしていくことで、グループの仲を深めることができました。
- ハワイ内の文化や建造物などを知ることができた。日本とは似ている部分、異なる部分が共存していて面白かった。
- 英会話能力を楽しく身につけることができた！仲間と協力する楽しさややりがいも学べる！
- 歩くのは疲れたけどみんなでミッションを達成しながらいろいろな場所に行けてとても楽しかった。ハワイのビーチはごみがほとんどなくてみんな環境問題を意識しながら生活しているんだなと思いました。ごみ箱が至る所にあってびっくりした。
- グループとの交流を深めることができた上に、環境問題への配慮をした活動もあり、持続可能な社会への一歩に協力できた。
- この時にさらに班のみんなと仲が深まったので、本当に嬉しかった。みんなで協力し、男女関係なくおしゃべりをして最高の思い出になった。本当に楽しかった。
- バスやフードコートなどで、現地の方と同じ生活エリアに行くことが多かったが、そこで話しかけてくれたり、クッキーをくれたり、バスの中で皆オープンに話していたりして、日本との雰囲気の違いを特に感じた。
- ハワイの文化やバスの乗り方、ハワイの食事についても学ぶことができて、しかも観光もできたのが本当に楽しかった。そこで班の人たちとも仲が深まった気がする。
- 班のみんなで協力してミッションをクリアしていくのはとても楽しかったです。ミッションだけでなく、歩いたり、バスに乗ったりしながら、班の子と沢山話す機会があって打ち解けることができて嬉しかったです。ガイドの方にも英語でハワイのおすすめの料理やお店などを沢山質問することができたので良い経験になりました。
- 知らなかったハワイの歴史や文化を実際に見て感じる事ができた。やはり百聞は一見にしかずであると思いました。
- 楽しみながら、英語を学べていい経験になりました。しかも本当に英語を使用して生活している人と会話ができて、自分の英語力がわかりました。とてもいい機会でした。

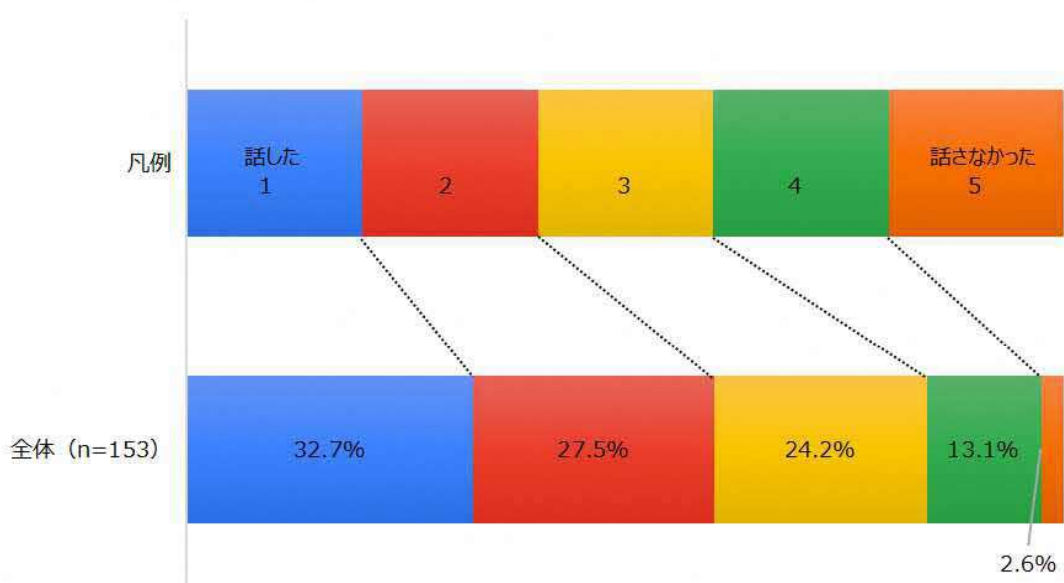
③ハワイ現地での英語の理解度

- Kevin氏や現地リーダー等の英語がどの程度理解できていたのか聞いたところ、「理解できた」を1とし「理解できなかった」を5としたとき、「1」が14.4%、「2」が35.9%で、合計50.3%であった。次いで「3」が34.0%となっていることから、生徒の半数は聞いたことの大半は理解できており、3割程度は聞き取れないところはあるものの部分的には理解し、約16%はあまり理解できていなかったと考えられる。
- 1日目、2日目に、各グループとほぼ一日中一緒にいた現地リーダーとどの程度話したかについては、「話した」を1とし「話さなかった」を5としたとき、「1」が32.7%、「2」が27.5%で、合計で半数以上（60.2%）はリーダーと「話した」という実感を持っている（昨年度は49.6%）。一方、「話さなかった（5）」は2.6%、「4」は13.1%であることから、参加者の約16%は現地リーダーとほとんど話さなかったものと思われる。

Kevin氏や現地リーダー等の話す英語の理解度



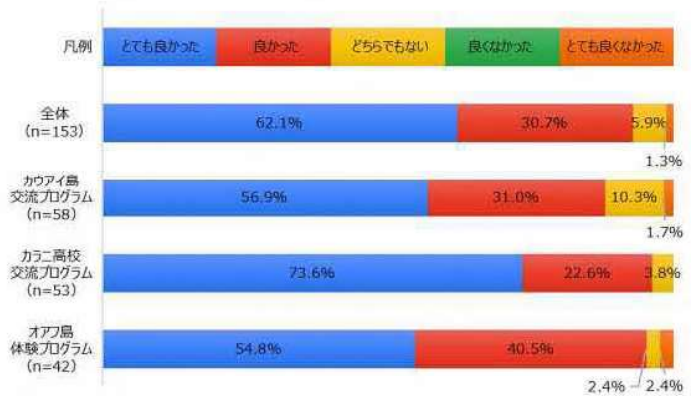
現地リーダーとの会話量



④現地交流・体験プログラム

- 3日目の現地交流・体験プログラムは3つのグループに分かれて行われた。
- 全体では「とても良かった」が62.1%、「良かった」が30.7%で、計92.8%に達しており、総合的には非常に高い評価となっている。
- プログラム別では、カウアイ島交流プログラムが最も評価が高く、「とても良かった」が73.6%であった。非常に満足度が高かったことが分かる。
- 一方、カウアイ島交流プログラムは、「とても良かった+良かった」が87.9%と、全体（92.8%）より低くなっている。「どちらでもない」「良くなかった」と低く評価した参加者の理由を見ると「現地高校生と十分にコミュニケーションがとれなかった」など、プログラム自体の問題というよりも、各自の感想によるものが多いとなっている。
- オアフ島体験プログラムは、「とても良かった」は約55%と、他のプログラムより低いものの、「良かった」との合計は95.3%にのぼっており、総合的には評価が高かったといえる。

現地交流・体験プログラムの評価



<参加者の感想より>

■カウアイ島交流プログラム

- 大学のようなカリキュラムだったため、同じ17歳の高校生でも全員が大人びて見えました。またワイメア高校のクラブ活動や教室、授業がすごく手の込んだものだったので、文化の違いを感じることができました。授業中に中庭から鶏の鳴き声が聞こえたり、すずめが室内にいたり日本では体験できないことばかりで驚きました。
- 自分自身、まったくといっていいほど英語が聞きとれず会話をするのにとても苦労したが、翻訳機等を使いながら、なんとかコミュニケーションをとることができた。楽しい時間しかなく、日本とは違う、ハワイの高校を体験でき、ワクワクがいっぱいの一日だった。
- 生徒さんが作ってくれたレイはとてもお気に入りです。スパムを作ったときには、初めてだったけど、教えてもらって最高に美味しく作ることができました。フラダンスや歌を披露してくれたときには、皆笑顔で楽しそうに踊っている姿はキラキラと輝いて感動しました。日本のハワイやお互いの高校、地元を紹介しあい、ハワイに対してもっと興味を持ちました。今より英語のスキルを上げてハワイにまた絶対行きたいです。
- 日本の学校との違いについて多く知ることができて、新しい世界が広がった。また、コミュニケーションをとることは難しかったので、コミュニケーション力を上げたいと思った。
- カウアイ島の山奥に存在するカウアイ高校が、その環境から平屋建ての校舎がほとんどで、渡り廊下もほとんどが外に屋根がないものが多く、とても開放的でした。建物からも、日本と文化や環境が根本的に違うことを実感しました。海外の生徒たちが、普段私たちが英語の授業を受けている時の形式と同じように日本語の授業を受けている風景がとても新鮮に感じられました。
- 英語を話せて深く交流できてうれしかった。
- 最初は、英語が分からず現地学生と話すのをためらっていた時があったので、最初からためらっていたら良くないと思いました。話しているうちに打ち解けることができて良かったです。友達もでき、とても良い体験ができました。
- カウアイ高校との交流では、初めは英語でコミュニケーションをとることに不安を感じていたけれど、実際に高校に行って現地の高校生と会話をしてみると、簡単な英語や少しの日本語を混ぜて話してくれたおかげで話している内容を理解して、楽しく会話をすることができました。日本で英語の授業があるように、ハワイでも日本語の授業があることを知りました。英語と日本語の両方で交流することができて楽しかったです。
- ハワイの高校生たちとの交流は、私にとってとても価値のある経験になりました。私が今まで、好きで勉強してきた英語を活用できて、とても嬉しい気持ちになりました。また、これからの英語を学習するモチベーションにもなりました。私は英語は問題を解くためのものではなく、人々と話すためのものだと思って学習してきたので、今回の高校訪問はとても楽しかったです。

■カラニ高校交流プログラム

- 日本との違いを痛感した。転校したいくらい、自由な感じで羨ましかった。
- 初めて他国の学校を見て、日本とは違って自由な感じなんだなと思った。授業も自分の興味があるものに参加でき、また現地の人とたくさん会話して仲良くなれてとても楽しかった。
- 自分が英語が話せるか不安な中、すごく丁寧な対応をしてくださって話しやすかった。カラニ高校の学生とも積極的に話したり遊んだりできた。
- やっぱり英語力がないと難しい場面が多くて、自分の英語のできなさとか話せなさをよく知った。楽しかったけど、英語がもっと理解できたらもっと絶対楽しいのと思った。もっと上達してから友達になったカラニ高校の高校生とまた会ってみたいと思った。
- 日本の学校と違う点がたくさんあった。授業が堅苦しい感じではなくて、ユニークな内容ばかりで本当にこれから必要とされる能力が培われるような教育体制で素晴らしいと思う。スポーツをする環境も綺麗で充実していた。生徒もほとんどがフレンドリーに接してくれて良い経験ができた。
- 日本とハワイ（アメリカ）で高校のつくりや先生のフレンドリーなところなど色々なところで違いを見つけることができました。ものすごく広い学食や教室の多さに驚きました。壁に模様が描いてあるところがあったり、面白そうな授業があったりと、授業をまわる時はすごく楽しかったです。
- カラニ高校の生徒も日本語を一生懸命話してくれて楽しかったです。また、ガーデニングのときにかぼちゃのようなトマトのようなものがあって何だろうと思ったときにカラニ高校の人に聞くなど積極性が身につきました。
- カラニ高校で実際に授業を受けてみて日本の高校の授業とは全く違ってびっくりした。
- 最初は緊張したが、時間が経つにつれてとても楽しく話すことができた。
- 友達もできましたし、自分のわからないジャンルの授業を受けることで新しい発見があったのでとても楽しかったです。しかし、参加する側があちら側の説明に無反応だったり、「やってみる？」と聞かれても何も答えなかったりする場面が多く見られました。自分からこの事業に参加したのだから、何かしらの反応をするべきだと思いました。
- 現地の高校生や先生方が優しく声をかけてくれて、とてもコミュニケーションがとりやすかったです。
- 現地学生と日本の学生との生活の違いを知れました。現地学生の皆さんはとても明るく、笑顔だったので私まで笑顔になりました。とても楽しかったです。

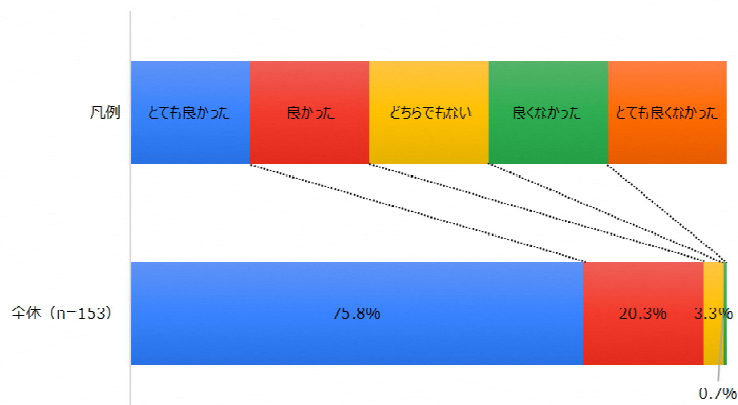
■オアフ島体験プログラム

- アラ・ワイ運河を綺麗にするプロジェクトや、工夫されているスーパーなど、より地域の色んな課題に向き合える1日だったと思う。
- 元氣玉プロジェクトなど、日本ではできないことができて良かった。
- 大学の昼食で口コモコを食べてとても美味しかった。大学はとても広くて色々なものがあつたので街みたいだった。大学生が日本の物を持っていて見せてくれたので嬉しく感じた。
- 大学などを見て、日本との違いが分かり、日本文化センターで日本との交流の歴史などが理解できて、関係性がよく分かった。
- 現地の大学を見て日本の高校と大きく異なっていて驚きました。大学内に様々な施設がありました。特に学生が描いた絵を飾る展示室や、ライブや音楽ができるホールのようなものがあることに驚きました。歩いていると日本語も聞こえてきて、世界中から学生が集まっていることがわかりました。
- 元氣玉を実際に作ったり、アラワイ運河を見て現状を知れたので良かったです。ハワイ大学のキャンパスを見学した時は、キャンパス内にいろんなお店があったり、学生の多さに驚きました。文化センターでは、日系人の歴史を知ることができました。
- ハワイ大学はとても広くいろんな人種の方々がいて、とてもグローバルを感じた。
- 同じ大学でもハワイと日本では学校生活のスタイルが異なり、ハワイの方がよりフレンドリーに感じました。施設もとても充実していて、学校内に息抜きのできる空間が揃っているのはすごく素敵だと思いました。
- 元氣玉を作ることに以前から興味があったので参加できて良かった。学ぶだけではなく実際にハワイのために協力できて良かった。
- 元氣玉の体験は、このハワイ研修の中で一番新鮮で楽しいプログラムでした。幼少期に泥団子を作ったことを思い出しました。
- 参加者が楽しめる方法でSDGsを実践していたのがすごいと思った。
- ハワイ日本文化の博物館に行って、日系人の気持ちだったり、その家族の気持ちだつたりを知ることができた。他にもその時代の暮らしや物を見ることができて良かった。大学の学食はフードコートくらい大きくて驚いた。大学のブックストアに行ったり日本のような物を見たりして楽しかった。
- 日本とハワイの違いについて知ることができました。個人的な旅行では行くことがない場所なので特別感がありました。

⑤「グローバル探究プログラム」の総合的な感想

- 「グローバル探究プログラム」の総合的な感想を聞いたところ、「とても良かった」（75.8%）、「良かった」（20.3%）合計で96.1%を占め、参加者の大半が高く評価していることが示された。
- 自由回答の内容を見ると、ハワイという魅力的なエリアを訪れたことのみならず、体験プログラム、グループメンバーとのコミュニケーション、現地の高校生との交流など、本事業ならではのプログラムへの評価が大きいことが分かる。
- 「ハワイで困ったこと」では、英語でのコミュニケーション、チップやセントの扱いなど、支払い、バスなどの交通ルールに関する意見が多くみられた。

グローバル探究プログラムの総合的な感想



<参加者の感想より>

■ハワイで最も良かったこと、心に残ったこと

<各種プログラム>

- ハワイの学校の人たちとの交流が楽しくて一番心に残った。
- 海外の人と直接交流することができた。カパア高校での交流が一番良かった。
- 日本とハワイの歴史を知れたり、いろいろミッションを達成していくのが楽しかった。
- 4日目にはオアフ島一周観光に参加しました。そのときに、独自に発展してきたハワイの文化や産業、社会問題等についてより深いことが学べて、とても有意義に過ごすことができました。
- 一日目にパールハーバーに行った時に、何十年も経ったものがそのまま保存されていてすごく驚いた。（日本の飛行機が割った窓ガラスや装備品など）アメリカの航空機にも乗らせていただいて、すごく珍しい体験ができた。
- カラニ高校で、たくさんの生徒の人と話をしたり、フラダンスを教えてもらったりしたこと。

<ハワイらしさ>

- 海がきれい。
- ハワイの景色が日本とは別格で、ハワイに来てとても良かったと思いました。
- ダイヤモンドヘッドからの景色が綺麗だった。
- ハワイと日本では、文化であったり、気候、景観や食事など、たくさんの違いがみられたことが一番心に残った。

<英語が通じた体験>

- 現地の人と交流する機会が豊富だったので、英語を使用することが多かったのですが、私が思っていたよりも会話をすることができたことが心に残っています。また、学校の授業で習う「英語」と現地で話されている英語は、かなり異なっていて驚きました。その他にもいくつか聞き取れない、知らない単語はあったものの、ほとんどが知っている単語だけで日常会話が行われているということを知りました。
- 現地の人と英語で会話することで、英語力の向上を感じた。また、初めて海外へ行き、とても興味深いものをたくさん発見することができた。
- 現地の人たちとの交流がとても多かったので、自分で考えて伝えることの難しさと、伝わって反応があったときの嬉しさがとても印象的だった。
- 本当に英語に自信がなくて初めの頃は緊張していたけど、話してみるとちゃんと通じて会話が成り立ったことが心に残った。
- 公共のバスで年配の方や障害のある人を見かけた時に現地の人が席を譲ったり、手伝ったりしていたことが印象的だった。ホテルのエレベーターでは、外国人と英語で会話して意思の疎通ができた。

＜ハワイの人たち＞

- 現地の人々がすごくやさしかった。
- ハワイで良かったことは、店員さんや住んでいる人達がフレンドリーでとてもやさしかったことです。お店ではお土産の飾りを決める時、一緒に選んでくれたり、お会計でコインを減らしてくれたり、とても良かったです。困っていたら教えてくれるところもあり、嬉しい気持ちでした。
- 店員さんが気さくな雰囲気、ジョークにも対応してくれました。
- 海外の人たちがとてもテンションが高かったのが疲れたけど、自然に元氣になりました。最終日には、友達と最後にワイキキビーチで写真を撮ろうとしていたところに、女性の方から「写真を撮ってあげようか？」と言ってくれたのがとてもうれしかったです。海外は怖い印象が多かったけど、親切な人ばかりなのでとても良かったです。

■ハワイで最も困ったこと

＜英語でのコミュニケーション＞

- 現地の方の会話のスピードが速かったことです。
- いざという時に焦って英語を使えない。
- アクセントが違くと英語が通じなかったこと。
- 言語が通じずに注文を間違えたこと。
- 英語の発音で伝わらないことが多かったのと、会話するときに上手く言葉が出てこなくて困りました。
- 英語で話しかけられても、言っていることは理解できたけど、言葉で返すのができなかったの、ジェスチャーで何とか伝えた。

＜支払い、お金＞

- 買い物をするときにドルは分かったが、セントが分からなかった。店員さんが助けてくれて助かった。
- 会計などでたまに困った。
- お金の計算。セントかドルの計算はすぐに理解できたけれど、会計の時にプラスでチップの値段が入ってくるから、会計前にあらかじめその商品の代金を用意してそのまま払うことができなくて少し困った。
- チップを出すべきなのか出さなくてもいいのかを判断するのが難しかった。

＜交通機関、交通ルール＞

- ハワイで最も困ったことは、バスです。特に4日目の自主研修では特に自分たちで道を調べて、目的地まで行かなければいけなかったけれど、バスの乗り降りの仕方が分からず、バスは使いませんでした。

●空港で迷っていたときに話しかけてくれて分かりやすいようにジェスチャーで道を教えてくれたことです。ハワイの人はとても優しくかったです。私も困っている人がいれば助けてあげられる人になりたいなと思いました。

＜グループメンバーとの交流＞

- やはり、最終日の自由研修のときです。4人でまわりましたが、英語で何かを聞くときに頼ってもらえたのがとても嬉しかったです。靴屋さんに行ったときにサイズや他にあるか、バスがアラモアナセンターにつくかなどを話しかけることができて楽しかったです。
- ハワイの歴史や学生と話せたことや班や周りの人と協力して行動したり、会話したりしたこと。
- 班の人は初めて出会った人が多かったけど、最終的に男女問わず仲良くなれ、協力できたこと。現地の人と友達になれたこと。

- バスのどの路線に乗ればいいのか分からず困りました。

- 目的地に移動することです！このバスがどこに向かっていのか分からない時が多々ありました。

- 信号機の点滅が早すぎる。

＜生活＞

- トイレが少ないこと。
- コンビニの中ですらトイレが無かったので、そこが今回一番困ったことでした。
- 食べ慣れないご飯や量の多さに困った。
- 日本でのビックサイズがハワイのレギュラーサイズであるようなボリューム感など、日本とは違う文化に対応することが難しかったです。
- トイレとシャワーがつながっていたので、かなり手こずった。
- 自動販売機がなかったので、水が無くなった時は困った。

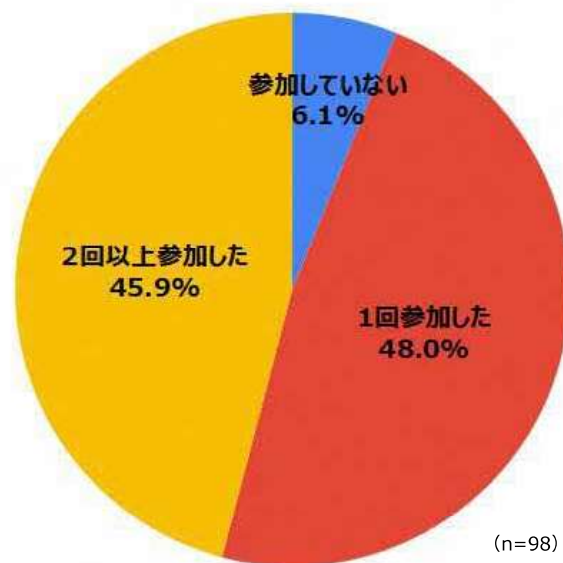
＜スケジュール、体調管理＞

- すごく足が疲れた。たくさん歩いた。
- 1日目のスケジュールがハードすぎる。
- 急な発熱が起きたこと。フライトでの疲れや学校の疲れなどがたまっていたことが原因で、2日目は特に体調が悪くなった。

(6) 国際交流体験プログラム

- 本事業では、国際交流コースの参加者は2回以上、語学コースの参加者は1回以上、地域で行われる国際交流イベント等に参加することになっている。参加状況を確認したところ、「2回以上参加した」が45.9%、「1回参加した」が48.0%で、合計93.9%は1回以上参加している。
- 参加したイベント等を見ると、地域での交流イベントをはじめ、Plat ABC のイベントが数多く挙げられたほか、学校のALTとテーマを決めてトークしたなど、様々な形で国際交流に取り組んだ様子がみられた。(参加イベント等の詳細は19～20ページ参照。)

国際交流イベント等への参加状況



<参加者の感想より>

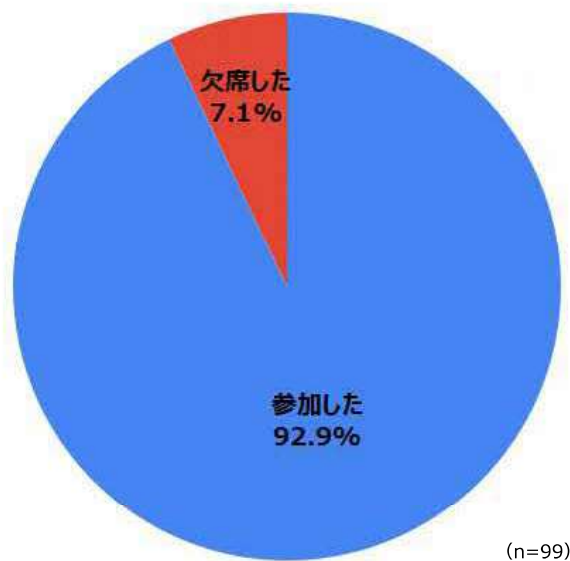
- 初めは英語で自己紹介をし、時間になるとALTの先生が英語で話しながら自分が書いた絵を見せてくれたり、みんなで知っているアニメ(ドラえもんやピーチ姫)の絵を描いてくれたりしました。その後はALTの先生に書いてほしい絵をリクエストしたり、一人ひとりがホワイトボードに絵を描いて楽しみました。私はなるべく英語で会話をするように心掛け、サポーターの方に聞きながら英語で話をしました。まだまだ聞き取れない言葉が多かったので、もっと勉強しようと思いました。(Let's Draw!/Plat ABC)
- 今回の国際交流で私は、積極的に触れ合えることができたのではないかと思います。私は今回、お祭りに参加する側ではなく、運営させていただく側としても参加させていただきました。その際に海外の小さな子どもたちと一緒にゲームをして楽しむことができました。最初はとても緊張して、思うようにゲームのルールを伝えることができなかったけど、だんだんやっていくうちに、笑顔で話せるようになり、また上手く伝えにくいなと思ったことは、ジェスチャーをしたりするなどし、工夫をしながら、運営側としても楽しむことができました。自分としても、少し自信がつき、みんなにありがとうと言われとても嬉しかったです。(夏祭り/Plat ABC)
- 今回のWelcome to SEED projectでは、米軍基地の学生との交流で、会話が繋がらないときや聞き取れなかったときがありました。そして英語を言い間違えたりしました。でも米軍基地の学生さんは優しく接してくれました。時には遊びに誘ってくれたりしました。しかし、米軍基地の学校ではびっくりすることがたくさんありました。日本では昼食は自分たちでついたり、掃除をしたりしていますが、米軍基地の学校では大人の方がそういう作業をしていてとても驚きました。ですが、海外の文化を否定せずに理解できたのが今回の学びの成果だと思いました。そしてハワイに行くときまでにはもっと海外の人とのコミュニケーションをとれるように頑張っていきたいです。(日米交流事業 SEED PROJECT/M.C.ペリー・ハイスクール)
- 私はオーストラリア、ニュージーランド、フィリピンの留学の支援制度や内容などのお話を聞きました。それぞれ特色があって、国ごとに強みが違ってとても面白かったです。個人的にはフィリピンの留学がいいなと思いました。フィリピンは他の国と比べて先生の賃金が安いので、一對一の個別で英語を教えてくれるそうです。個別で指導していただくことによって、自分が苦手なところを徹底的に勉強することができます！さらに、SDGsの体験もあり、貧困や水資源の体験もあるそうです。とても魅力的でした。株式会社LOOPALの代表 田原佑介氏による講演も聞き、ブースでもお話を聞き、質問もしに行かせていただきました。私の考え方と似ている部分もあってとてもおもしろかったです。海外留学や、海外進学の手もありがたかったです。(山口から世界へGoGoプログラム/KDDI維新ホール)
- 最初は、完璧に英語を話さなければならないと思っていたけど、周りの日本人の方々が日本語と英語の単語とジェスチャーを使って話していたので、学校で習った通りに使わなくても通じるのだと思いました。それから、気が楽になってたくさん話す事ができました。ハワイに行った時も、間違っていないからとにかく話してみたいと思いました。(日米協会料理教室/愛宕スポーツコンプレックス)
- キッチンカーでの購入を通して外国人と話す。ちょっとした英語だったが購入できた。外国人と日本人という違いはあるがみんなで楽しんでた。文化の違いがありながらも一つになっているようだった。お互いの文化を尊重し合うことが大切だと改めて感じました。(The TEENS IMPACT 2024 ~日米交流KIZUNAフェスティバル~/愛宕山ふくろう公園ほか)

- 最初は話しかけることも抵抗があり、なかなか外国人の方と写真を撮るのが難しかったけれど、「Could you take a picture with us?」と聞くと、どの方も快く対応してくれたので、話しかけることの抵抗もだんだん減っていきました。ずっと英語で話し続けるのは難しかったけれど、その場で何と言ったらいかなどを考え、自分の言葉を英語に置き換えることが少しはできたので嬉しかったです。普段こんなにたくさんの外国人に囲まれる状況がないので新鮮だったし、外国の雰囲気を少しは知ることができた気がします。コスプレ大会のときの優勝の決め方が拍手や歓声の大きさだったことはびっくりしました。日本にはあまり見られない文化を知るとはとても面白いと思いました。
(ハロウィンカーニバル/岩国市民文化会館小ホール)
- 英語が苦手で会話できるか不安で、発音もできなくてきちんと話せなかったけど、話が終わるまでみんなが待ってくれたり、スマホで通訳してくれて、とても優しくかった。写真をお願いしたら、みんな「いいよ」と答えてくれて嬉しかった。海外の方と普段関わる機会がないからとても良い体験になったし、楽しくて思い出になった。フィリピンの方に話しかけた時、英語が伝わらなくてとても苦戦した。
(錦帯橋イングリッシュフィールドトリップ/吉香公園及び錦帯橋周辺)
- お会計の際には自分で英語で注文し、歩いている時でも外国人の方がフレンドリーに話しかけてくださり、少し会話をしたりしました。また、列に並ぶ際などに同時に行きかけた男性が「After you」と言って譲ってくださり、外国ならではのレディーファーストも感じました。米軍基地のある岩国だからこそ体験できる雰囲気を感じることができ、とてもいい経験になりました。(Holiday Tree Lighting/米海兵隊岩国航空基地)
- パンケーキ作りは英語のレシピだったので少し難しかったけど、友達とどういう意味なのかを考えてみたり、ALTの先生と一緒に作ったり、楽しく参加できました。パンケーキもとても美味しかったです。「ハワイではクリスマスにどんなことをしますか」と聞いたら、「ハワイは暑いので、ビーチに行ったりショッピングしたりする。大きなパンケーキを食べたりする」と言っていて、「ハワイでは新年のイベントがありますか」と聞いたら、花火がたくさんあがるそうです。ハワイのおすすめの食べ物を聞くと、「アサイーとpokeが美味しい」と言っていて、食べてみたいと思いました。英語で質問するのは難しかったけど、自分なりに頑張って伝えて、答えが返ってきたのでとても嬉しかったです。これからも続けていきたいなと思いました。
(ALTとの会話/高森みどり中学校)
- 英語で紹介することで伝わらないこともあったけどなんとか仲良くなることができました。また、大きなシャボン玉で喜んでくれたので良かったです。さらに、テレビや新聞のインタビューで、グローバル人材の大切さや英語力を上げることの重要性を話すことができました。(岩工祭/岩国工業高校)
- 自分の英語での表現の幅が広がり、ハワイに行く際にも使ってみたいと思いました。また、授業で学んだのに、忘れてしまっていたところもあったので、しっかり復習できたと思います。(ALTとの会話/岩国総合高校)

(7) ローカル探究プログラム

- ローカル探究プログラムには、92.9%の生徒が参加した。
- 将来的に留学したいと考えている参加者も多いことから、白神先生や増野氏の話聞いて、実際の体験談や失敗談などへの興味関心が高まったようである。
- 県立大の芹澤先生による講義では、「これまで考えたことのない内容で、非常に興味深かった」という感想がみられた。
- 県大生メンターによる「山口クイズ」は、グループメンバーの交流を深めるとともに、山口について知識を深め、ローカルへの意識を高めることにつながった。
- グローバル探究プログラムのガイダンスでは、ハワイに渡航するという実感を持つことができた参加者が多かったようである。

ローカル探究プログラムの参加状況



<参加者の感想より>

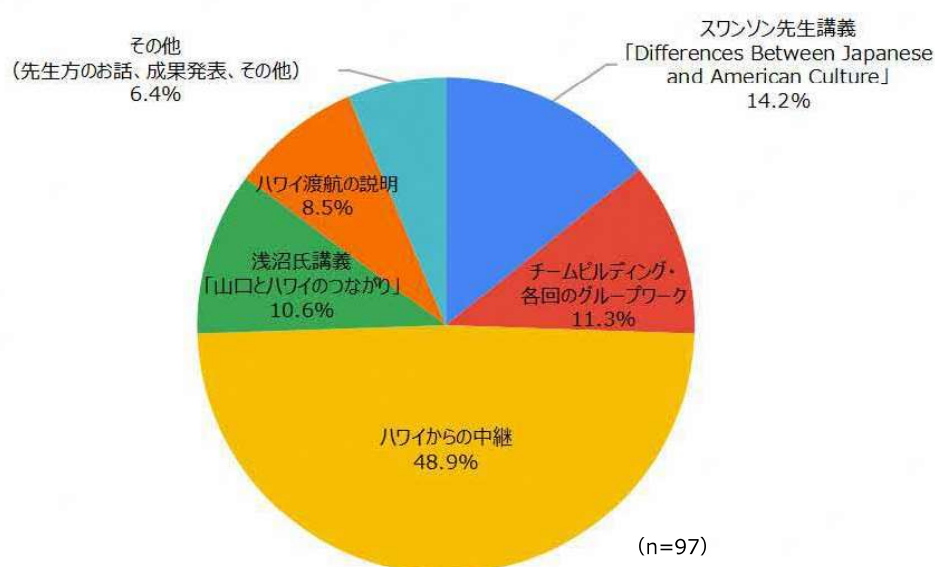
- 今日の研修では前回の研修より、グループの仲を深めることができたように思えました。限られた回数の研修で、ハワイに行くまでになるべくグループの仲を深めたいと思い、前回よりも積極的に意見を出したり、コミュニケーションをとったりするように心がけました。前回の研修では話したことがなかった人とも今回は関わることができて、嬉しかったです。また、グループ対抗で行われた山口県についてのクイズでは、見事優勝ができ嬉しかったです。三人寄れば文殊の知恵ならぬ、みんなの知恵が生きていて、面白かったです。また、何人かの講師の方々のお話を聞いて学ぶことが多くありました。杏花さんと晃さんのお話では、お二人のリアルな体験を間近で聞くことができ、私も大学に入ったら留学してみたいと思いました。歴史に関するお話は正直最初は難しく感じましたが、途中から興味が湧き、最終的には楽しく聞けました。グループディスカッションでも濃い話が飛び交い、面白かったです。
- 今日の講演では、留学に関するリアルな話を聞くことができました。長い間他の国に住んでいると、その国にしかない文化を学ぶことができるし、逆に日本にしかない文化も知ることができるということが分かりました。午後からの講義では、戦争と平和は対義語なのか、などの考えたことのない難しい話題について話し合うことができて、より世界について知ることができたと思いました。他にも、山口やハワイのことについてクイズで学ぶことができて楽しかったです。もらった塩キャラメルナッツクッキーはめっちゃ美味しかったです。英語の自己紹介(Three Words that Describe Me)では、グループの人のことをいろいろ知ることができ、仲良くなれてよかったです。
- 今回のお話を聞いて、ハワイへ行くという実感がとても強くなりました。1回目の時より多くの書類をもらい、ハワイに関する話を聞く時間も長かったので、今回ですごく実感できました。班の人たちも何人か増えたので、仲良くできたらなと思います。
- 晃さんと杏花さんの体験談が今回の研修で一番印象に残っています。私は将来日本語教師になりたいと考えており、高校・大学在学中に留学に行き、言語や文化に対しての知識や理解を深めたいと考えています。さらに、山口県立大学の国際文化学部で学びたいとも思っており、私にとってお二人の話を聞くことができるのはとてもラッキーなことでした。晃さんはカナダに8ヶ月留学していたと聞いてとても驚きました。この夏に2週間アメリカに留学していたのですが、食べ物が合わないなどとても多くのカルチャーショックがありました。家に帰りたと思うことも多かった中で楽しむことができましたが、行く前から8ヶ月異国の地で過ごすということを覚悟していたと考ええると、あらためて行動力の大切さに気付かされました。また、台湾で日本語T Aとして2ヶ月過ごした杏花さんの話では、財布を無くしたりルームメイトとの感覚の違いに悩んだり、大変なことを多く経験しつつも、自分からダメなところを見つけて改善しようとする力に感動しました。留学した先で日本語を教えようにも自分の知識が足りないし、英語もペラペラではないから上手く説明ができない、という経験を実際にアメリカ留学で経験しました。だからこそ、もっと日本語について調べたり、英語を話せるようになっていたりしたいと思うことができました。自分の経験と晃さんや杏花さんの経験談を活かして、これからの自分の進路を決めていこうと思いました。次に留学に行く際には英語が公用語ではない国にも挑戦してみたいです。

- 今回は2回目の集まりで、前回よりは緊張しなかったけど少し緊張しました。今回も前回と同じく皆と話さずに終わるのかなと思っていたけど、昼休みの時、同じ班のメンバーが話しかけてくれてとても嬉しかったです。Three wordsで自己紹介をする時も、ペアの人とたくさん話すことができて良かったです。ハワイに行くための資料を沢山もらったのできちんと管理して、提出期限を守りたいです。次の集まりまでに、たくさん期間が空いているけど、お互いに連絡などして少しでも距離を縮めていきたいと思っています。留学の話など聞いて、行ってみたいなと思いました。でも、日本と海外では異なったマナーがたくさんあったり、電圧も違ったりするので気をつけたいです。本当に今回はたくさんの人と話することができて楽しかったです。
- 今日はみんなで集まるのは、2回目でした。今日の講義・講演はとても面白い内容でした。最初の講演では、講師の方の留学の経験などを聞きました。話の内容は、なかなか聞いた事のないような新鮮な内容ばかりでとても興味深かったです。次にワークショップでディスカッションをしました。ディスカッションの内容はとても難しいものばかりでしたが、色々なグループの意見を聞いて、とても勉強になりました。次にグループワークをしました。Yamaguchi Quizがあって、みんなで話し合いながら考えるのがとても楽しかったです。今日は、講師の方のお話が聞けて、グループのみんなといっぱい話せて、とても楽しく良い時間を過ごせました。次も楽しみです。
- 初めての参加で、周りは第一回で少しはお互いの顔を知っていて、僕はほとんど知らない状態だったけれど、とてもみんな優しくして輪に入りやすかったです。とても楽しいプログラムだったなと思います。内容についてはとても難しいところもあり、頭が回らないこともあったけれど、グループのみんなと協力して話し合いをすることにより、一人で考えるよりもしっかりと課題に向き合うことができたので、グループ活動の影響はすごいなと思いました。実際に海外に行かれた方のお話も聞いてとても興味深かったし、益々ハワイに行きたい気持ちが強まりました。とてもいいお話でしたし、良い経験にもなりました。
- 今日は久しぶりにグループのみなさんと会うことができてうれしかったけど、少し緊張しました。だけど帰る頃には普通に話せるようになったので良かったです。次回は最初から頑張りたいです。午前中に聞いた白神さんと増野さんのお話で、楽しみだなと思うことが増えました。グループワークでは今回は賞品がゲットできず悲しかったけど、また今度チャンスがあれば頑張ります。最後にたくさん資料をもらって現実味を感じました。たくさん準備して楽しもうと思いました。
- 今回、一回目よりもチームの仲が深まった研修になったなと思いました。グループワークの時にアドバイスしたり、クイズで間違えても一緒に笑いあったりできました。ハワイ研修で学べるのは英語力だけではないというお話があったように、この研修でコミュニケーション能力、臨機応変に対応する力もつけていきたいです。たくさんのお話を聞いていく中で、留学の体験のお話が特に心に残り、留学がしたいという気持ちが少し出てきました。「やめたいと投げ出したくなった時もあった」とおっしゃっていたので、大変だなとは思いましたが、二人が堂々と話しているのを見て、興味がわきました。もともと小さい時から国際交流が好きでイベントに参加したりしてきたので、これからもっと国際交流をしたいなと思いました。
- 今回で2回目となったグローバル人材育成事業の集まりでは、1回目の嫌だなという気持ちはなく、ワクワクしていました。それに、1回目とは違い最初から高校生と話することができました。今回のグローバルの最後に自立と依存は対義語なのかを考えました。自分是对義語ではないと考えました、なぜなら、自立は独り立ちをするという意味ですが、どんなに自立しようとしてもどこかで必ず依存してしまうと思ったからです。国で考えてみると、日本はエネルギーや食料で依存したりしているからです。次の集まりで、今回の最後のようなことがあったら積極的に発表していきたいです。そしてハワイに行って人と交流できるように、話すことだけでなく聞くことも鍛えていきたいです。
- 今回は、前回の課題で提出した英語の自己紹介文を使ったグループ内での自己紹介と、日本とハワイの関係について学習をしました。自己紹介では、自分の特技や趣味などを、3つの英単語から上手く紹介することができました。ですが、あまり自己紹介文の内容を覚えられていなくて、自己紹介のプリントをずっと見て、話す相手を見ることがあまりできなかったで、次回英語で話す機会があれば、しっかり相手の方を見て話せるようにしたいと思いました。日本とハワイの関係の学習では、歴史について学び、そこから問いを出され、それについて答えました。少し難しい問いでしたが、しっかり考えて、発表をすることができました。

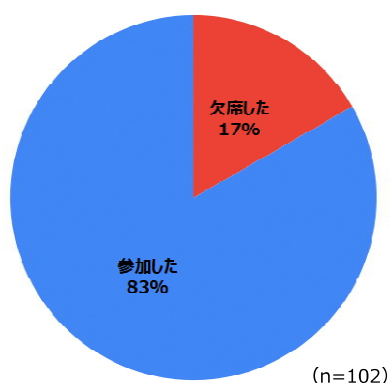
(8) グローカル・ラボ

- 今年度のグローバル・ラボも、全3回を全て対面で行った。
- 「最も心に残ったプログラムは何か」を聞いたところ、第2回の「ハワイからの中継」を挙げた参加者が約半数（48.9%）となった。ハワイでのSDGsの取組や、ハワイでの交通事情に言及したコメントが多く見られ、グローバル探究プログラムへの意識が高まったようである。
- 次いで、第1回グローバル・ラボでのスワンソン先生の講義「Differences Between Japanese and American Culture」が挙げられている。アメリカと日本の考え方の違いについての関心の高まりがみられたようである。
- また、グループのメンバーと仲良くなるきっかけとなった「チームビルディング、各回のグループワーク」も11.3%と、3番目に高い回答となっている。

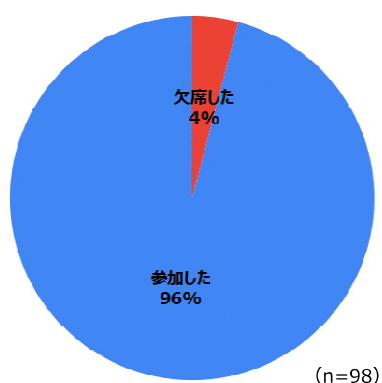
グローバル・ラボで最も心に残ったプログラム



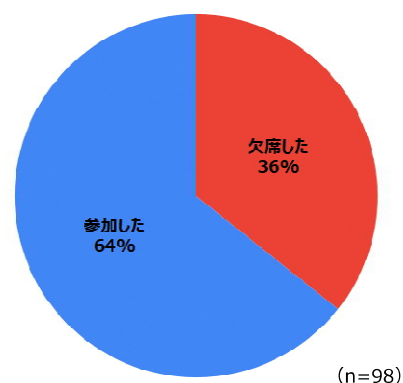
第1回グローバル・ラボの参加状況



第2回グローバル・ラボの参加状況



第3回グローバル・ラボの参加状況



■第1回グローバルラボ

<心構え>

- 自分の中で曖昧だったグローバルやグローバルという言葉をしっかり理解することができた。
- 主題である「グローバル人材」とは、グローバルな視野を持ちながらも地域に根ざした活動ができる人材を指し、この概念は、グローバル化の進展により国際的な視点が求められる一方で、地域社会の文化やニーズに理解を深めることが重要であることが分かりました。グローバルとローカルを組み合わせた「グローバル」という言葉が肝になるのだと感じました。
- 特に印象に残ったのは、グローバル人材がどのようなものなのかについての話で、英語力が高い人だけがグローバル人材として求められているという訳ではないということを理解しました。もちろん研修に臨むにあたって英語力をつけていくことも大切だとは思いますが、それだけでなく、さまざまな方法で人に伝えようとする必要だとわかりました。
- 今回のラボで学んだ心構えである「目的意識を持つこと」、「課題に対して主体的、対話的に取り組むこと」、「他の参加者は互いに高めあう仲間であること」、「困ったときは仲間を頼ること」、「困っている仲間を助けること」の5つを大切にしていこうと思いました。僕は人と話すのが苦手だったり、協力するのが苦手だったりするのに加えて、物覚えがよくなかったり、人前で何かしたりするのは苦手なので、この5つの心構えを大事にして、一人ではできないことも人と協力してできるようになりたいです。

<チームビルディング>

- チームに同じ学校の人がいなくて、とても心細かった。英語の実力が自分より大きく違って焦った。けれど、チームの大学生の方が、分からない単語を教えてください、翻訳してくださいして、自分で英文を作ることができた。今回は初めての顔合わせで慣れないことが沢山あったり、緊張して上手に話せなかったりした。けれど、たくさんのプログラムに参加して、チームの人達と少しでも距離を縮めることができたらいいなと思う。
- 私は、初めてこのイベントに参加したから、何をするのか、チームとどうやって仲良くなれば良いのか全く分かりませんでした。でも、知り合いが1人いたから、固くなることはありませんでした。今日は、1回目ということもあって、男女間の壁が少し見えたので、これから活動していく中で男女仲良くなれたらなって思っています。私が、1番心に残っていることは、輪っかづくりです。初めての共同作業で不安な部分が沢山あったけれど、男子が声をかけあって役割を決めてくれたのでとてもやりやすかったです。ゲームで入賞することができなかったけれど、とても良い思い出になりました。他にも、自己紹介やチーム名を決める時、皆のことを少し知ることができたので嬉しかったです。これからも少しずつ皆のことを知りたいと思っています。

- まず、1番印象に残ったことはわっか作りです。わっか作りは、今日決まったチームで折り紙とりのりだけを使い、他のチームに負けないように協力してわっかを繋げていくという作業です。私たちのチームは8人いたので4人ずつに分かれて活動をしました。それぞれ役割分担を決めたことで、作業がスムーズに進みました。また、自分の作業が終わったら、他の人のサポートをするなどして、完成させました。残念ながら、私たちのチームは負けてしまいましたが、みんなと上手に協力しながら、作業ができたので、とても嬉しく、楽しかったのが1番印象に残りました。

<講義・ワークショップ Differences Between Japanese and American Culture>

- 文化の違いについて、中には私の知っているものもありましたが、もちろん知らないものもありました。特におつりの問題には驚きました。わたしがもしその状況に陥ったら戸惑ってしまうだろうと思います。家に帰って調べてみるとセントよりドルをメインに使うということが書かれてあり、まさにこのことだと思いました。
- アメリカと日本の文化の違いには、「目に見えるもの」と「目に見えないもの」があると知りました。また、「勉強すること【何かをすること】で成長することができる」という変容的思考の方が、固定的な考え方より成長しやすいということがわかりました。
- 私が今日のラボで学んだことは、海外と日本には考え方の違いもあるということです。私は今まで、家に入るときに靴を履いたままか脱ぐかなど、見た目に違いがあるものはいくつか知っていました。しかし、アメリカでは、様々な考えを受け入れることや自分が悪くない場合には謝らないことがあると知りました。これらのことは、アメリカの人に実際に聞いてみたり現地に行ったりしないとわからないことだと思います。今回は、そのいくつかの例を学ぶことができて良かったです。

■第2回グローバルラボ

<グループワーク（ハワイ事前学習の成果共有）>

- 私はチップのことを調べて、チップを渡す場面と渡さない場面があり、大変だなと思いました。現在のハワイでは会計の15~18%分のチップを渡さないといけないと知りびっくりしました。ハワイのおすすめのお土産で、ホノルルクッキーやマカダミアナッツ、コーヒーがあったのでぜひ買いたいと思いました。ハワイでは冬と夏しかなく、冬は雨が降りやすいと知り、少し不安になりました。ハワイではアロハの他に、マハロ（ありがとう）という言葉があったので実際に使いたいと思いました。今、1ドルが約150円で円安なので、ちゃんと計算しながら買い物をしたいと思いました。ハワイにもお寺があるのでハワイに行った時は見つけたいと思います。
- 事前課題について、グループ内で互いに発表しました。僕はハワイの食べ物について調べて、発表しました。グループの人は景色のことだったり、観光スポットについて発表していて、色々なことが聞けました。
- ハワイについて調べたことをグループ内で紹介しました。これまで知らなかったことを沢山学ぶことができ、グループの人とも話すことができました。ワークショップでは、ご飯が美味しいお店や歴史のあるホテルを見て、ハワイに行ったら何をしたいか、何を学びたいかなどについて考えることができ、これからハワイに行くという意識を持てたと思います。

<ハワイからの中継 ハワイのいま・ハワイのSDGs>

- ホテルの内装や、汚染された川を綺麗にする元気玉の取組や、チップ事情や日本には無い交通ルールなど、様々なことを知ることができました。横断歩道がない所を通ると罰金になったり、信号が点滅し始めて渡り始めると罰金になったりするなど、役立つ情報を知ることができました。ハワイに行った時に、元気玉の取組に参加できるので、とても楽しみになりました。スタッフの方がおすすめのお店を沢山教えてくれたので、実際に行ってみようと思います。
- 特に印象的だったのは川を泳げるようにするための元気玉の取組のことについてです。僕たちが行く時までにはまだ泳げるようにはなりません、数年後には泳げるようになるらしいです。僕たちも貢献できてすごく嬉しいです。
- ハワイからの中継で、現地の雰囲気をつんとイメージすることができた。川の問題と、それに対する取組を知ることができた。
- グループワークで僕はダイヤモンドヘッドについて発表しました。朝日がとても有名だということがわかったので、実際に見てみたいと思っています。

<講義・ワークショップ 山口とハワイのつながり>

- 山口県から移民でハワイに渡っている人がいてとてもびっくりしました。サトウキビ栽培や農家をしていることにびっくりしました。
- ハワイと日本のつながりについても知ることができました。周防大島からは多くの移民がハワイに行ったことを初めて知りました。さらに、ハワイには多くの寺があり、昔、日本人が多く移住した名残があるそうです。ハワイに行った際には、現地のお寺や日本に関係するものを探してみたいと思いました。
- 何故ハワイは日本からの移民を受け入れたのかというと、ハワイ王国の砂糖産業の拡大を受けて、農園での労働力が必要になったからだそうです。ハワイに在住した山口県の人数は25,878人だと初めて知りました。また、山口県出身の大家族の写真をを見せていただいた時、たくさんいたので、とてもびっくりしました。
- 私は、ハワイは日本で人気なただの観光名所であって、交流自体があることをあまり知りませんでした。今回のグループワークで、山口、特に周防大島から多くの人々が移住し、今のハワイにも8世が暮らしているなど、その頃の影響が残っていることに強く惹かれました。興味深い歴史の話や第二次世界大戦による日系二世の志願兵の悲惨さや迫害、欧米人の来島による疫病での人口減少などの悲劇を学ぶことができました。そして第二次世界大戦後の復興に関わった日系人などの功績に感動しました。

<グローバル探究プログラムガイダンス>

- ハワイ研修の詳細が分かってきたことで、ハワイ研修が近づいてきているんだなと感じています。荷物整理をしっかりとし、ハワイに向けてしっかり準備を進めていきたいと思っています。
- ガイダンスで気になる内容がたくさんあり、ハワイ研修のスケジュールを見るだけでワクワクしました。しかし、決められたルールや知っておかねばならないことも多く、私にとっては不安なこともいっぱいありました。特に、パスポートや金銭の管理に気をつけ、現地の法律や、相手にとって失礼になる言動については、しっかりと理解してハワイに行きたいです。

8 事業による効果

(1) 事業の効果測定の考え方

事業の効果測定に当たっては、2ページに示した「育てたい力」に基づき、以下の図のようにアウトプットとアウトカムを設定し、その達成状況をアンケート調査にて確認した。

<効果測定モデル>

D. 政策目標の実現

『「安心で希望と活力に満ちた山口県」の実現』への貢献

C. アウトカム（社会に対しての事業の「成果」）

- 地球規模・国際的（グローバル）な視点や経験を活かし、自分たちの地域（ローカル）社会に貢献する人材の育成
- 幅広い視野を持ち、世界をフィールドに自分の将来像を描いて実現していく人材の育成

語学力を有する

多様性や多文化共生を尊重する

自ら考え、物おじせず行動できる

地域への意識・リーダーシップを有する

B. 直接アウトカム（「A. アウトプット」による参加者の変化）

語学力・コミュニケーション力

- 英語に自信が持てるようになる
- 外国人と話すことに抵抗がなくなる
- もっと英語ができるようになりたいと思い、英語学習に前向きに取り組むようになる

多様性や多文化共生への理解

- 外国人を身近に感じるようになる
- 多様性や多文化共生社会への理解を深め、尊重するようになる
- 他の国や地域をもっと知りたいという知的好奇心を持つようになる

自ら考え、物おじせず行動する力

- 自ら考えて発信・行動できるようになる
- 自分の所属するコミュニティ（学校、学年など）を超えて、広く交流できるようになる
- 物おじせず、外国などより広い世界で活動する積極性を持つようになる

地域への意識・リーダーシップ

- 地域社会でより積極的に活動する一員になりたいと思うようになる
- 地域社会への貢献について決意を持つようになる（決意宣言する）

A. アウトプット（事業に関連して実施する活動）

語学力・コミュニケーション力

- ネイティブの英語に接する
- 英語でのコミュニケーションを体験する
- 英語が通じたという成功体験を得る

多様性や多文化共生理解

- 異なる文化や社会、価値観に触れる
- 多文化共生社会を実感する
- 持続可能な社会について考える

自ら考え、物おじせず行動する力

- 課題について自ら考える
- 知らないメンバーの中で発言し協働する

地域への意識・リーダーシップ

- 地域の魅力を再発見する
- 地域課題を考える
- グローバル人材や「Think Globally, Act Locally」について考える

(2) データの留意点

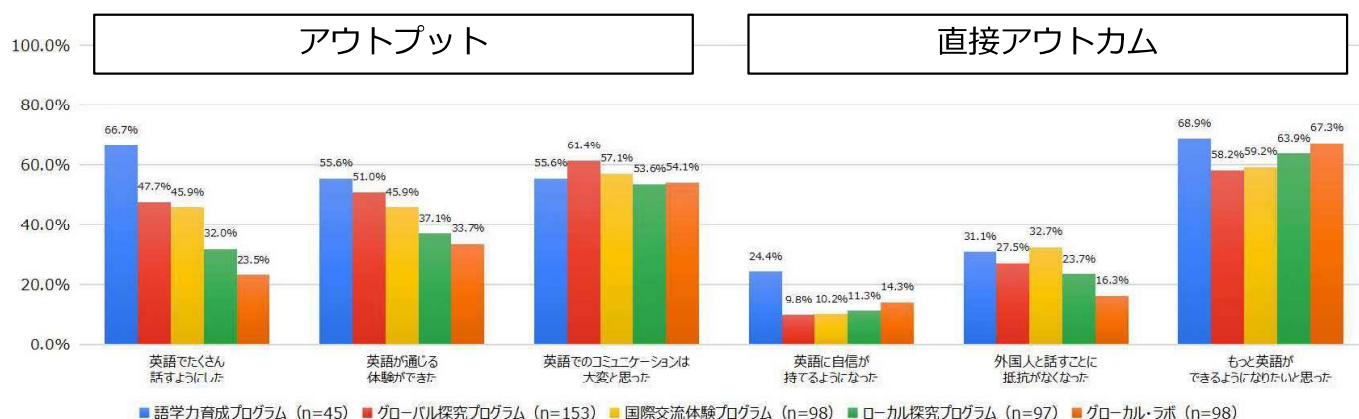
- 「語学力育成プログラム」はサンプル数が小さいため、参考数値としてご覧いただきたい。
- 各プログラムの特性により、プログラムによって聞いていない項目等がある。

(3) 各プログラムの効果

①プログラムごとの語学力向上への効果

- 項目ごとに見ると、「英語でたくさん話そうにした」は、語学力育成プログラムが66.7%と最も高くなっている。「英語が通じる体験ができた」についても、語学力育成プログラムは他プログラムより数値が高く（55.6%）、各参加者が積極的に取り組み、英語が通じるという成功体験や喜びを得たことがうかがわれる。
- アウトプット項目である「英語でたくさん話そうにした」「英語が通じる体験ができた」はいずれも、語学力育成プログラムが最も高く、グローバル探究プログラム、国際交流体験プログラムが続くという似た傾向を示している。グローバル探究プログラム及び国際交流体験プログラムでは「英語でたくさん話そうにした」（グローバル探究プログラム47.7%、国際交流体験プログラム45.9%）、「英語が通じる体験ができた」（グローバル探究プログラム51.0%、国際交流体験プログラム45.9%）といずれも約5割に達しており、多くの参加者が語学力やコミュニケーション力向上といった効果を挙げた。一方で、ローカル探究プログラム、グローバル・ラボでは、自ら英語を使わざるを得ないシーンはあまり多くなかったためか、一定の数値にとどまった。
- 「英語でのコミュニケーションは大変と思った」は、グローバル探究プログラムが最も高く、国際交流体験プログラム、語学力育成プログラムが続き、実際に外国人とコミュニケーションを行った経験が、英語でのコミュニケーション能力の必要性の実感へとつながっているものと思われる。ローカル探究プログラム（53.6%）、グローバル・ラボ（54.1%）でも高い傾向が見られ、英語での講義や英語の自己紹介など、英語を取り入れたプログラムを実施した影響もあると思われる。
- 上記のようにアウトプットの面では各プログラムの差異があったが、直接アウトカムである「英語に自信が持てるようになった」「もっと英語ができるようになりたいと思った」については、プログラムによる差異はそれほど大きくない。ただ、「外国人と話すことに抵抗がなくなった」は、語学力育成プログラム、グローバル探究プログラム、国際交流体験プログラムが高かったことから、継続的、あるいは複数日程にわたり英語を「聞く・話す」体験が、英語への抵抗感をなくすことに効果を挙げたものと推測される。
- 全体的に「もっと英語ができるようになりたいと思った」など、今後に向けた意欲を見せる参加者が多い一方で、「英語に自信が持てるようになった」と実感している参加者は少ない。英語ができないことを自覚して、頑張る気持ちを持たせることも大切であるが、英語の楽しさを体験する、あるいはその時点の英語力でも「なんとかコミュニケーションができた」という自信を持たせる経験も重要であると思われる。

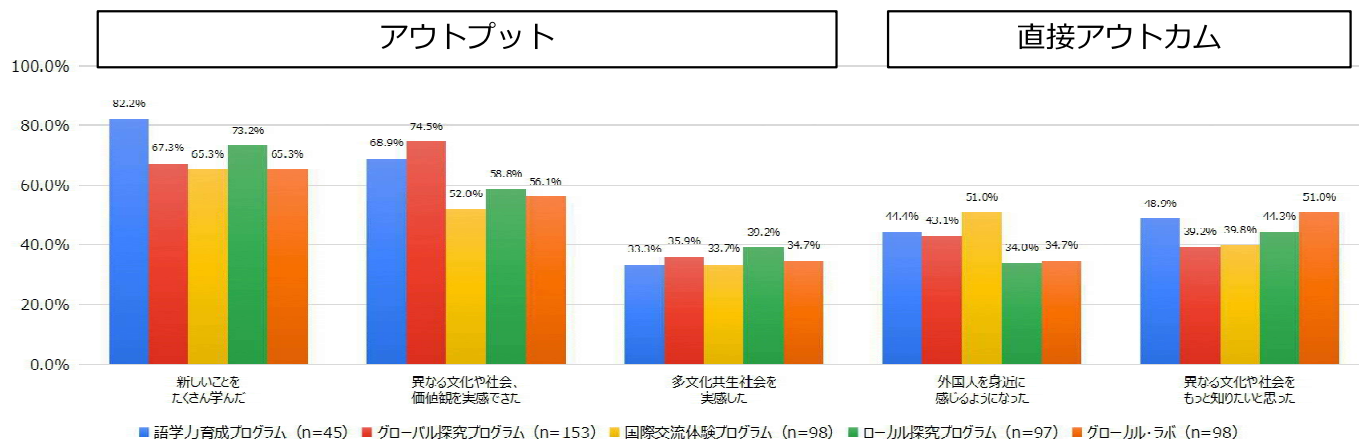
「語学力・コミュニケーション力」への効果



②多様性や多文化共生への理解

- 「新しいことをたくさん学んだ」については、語学力育成プログラム（82.2%）、ローカル探究プログラム（73.2%）が高い数値を示した。また、グローバル探究プログラム（67.3%）、国際交流体験プログラム（65.3%）、グローバル・ラボ（65.3%）も6割を超えており、新たな知見を提供するという点では、いずれのプログラムも高い効果を挙げたといえる。
- 「異なる文化や社会、価値観を実感できた」については、語学力育成プログラムの参加者で68.9%、グローバル探究プログラムで74.5%、ローカル探究プログラムで58.8%といった状況となっており、多様な人種の講師によるオンライン英会話、多文化が共生する社会を身をもって体験したグローバル探究プログラム、ハワイと日本のつながりを意識したローカル探究プログラム内での講義等が影響しているようである。
- 「外国人を身近に感じるようになった」については、国際交流プログラムが51.0%と最も高く、実際に様々な人や文化に身近に接する実地体験が、多様性理解・多文化共生に対する意識の変化につながっていることが分かる。
- 「異なる文化や社会をもっと知りたいと思った」については、グローバル・ラボが51.0%と最も高く、ハワイの歴史や文化等についての講義やグループワーク等を通して、異文化理解に対する意欲が高まったものと考えられる。
- 一方で「多文化共生社会を実感した」については全プログラムで30%台にとどまっており、特に国内プログラムにおいても、多文化共生を実感できるプログラム構成が今後の課題である。

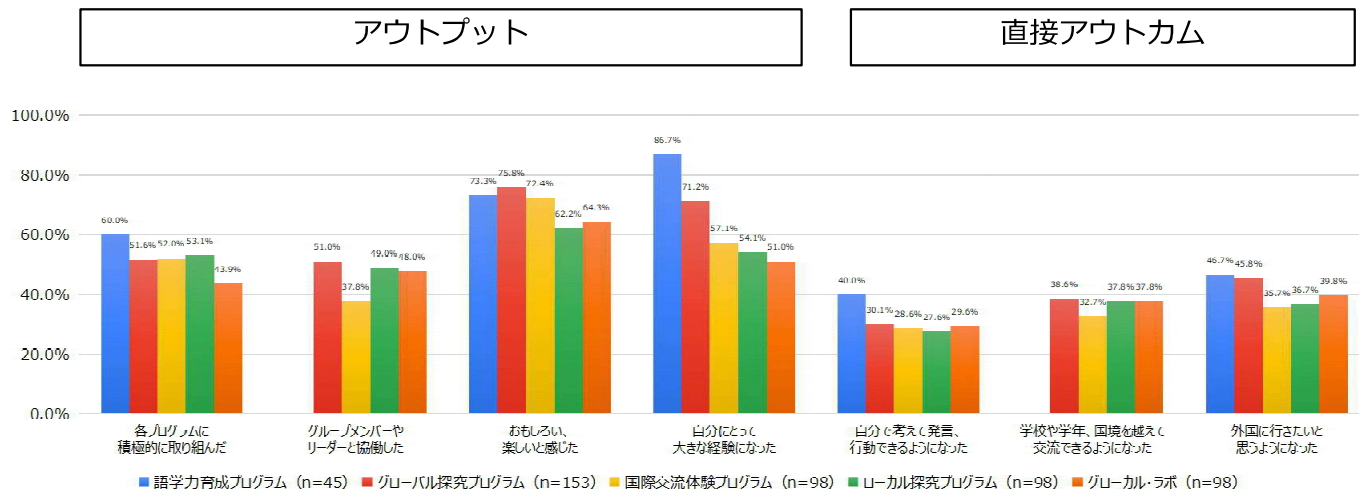
「多様性や多文化共生への理解」への効果



③自ら考え、物おしせず行動する力

- 「各プログラムに積極的に取り組んだ」については、語学力育成プログラム60.0%、グローバル探究プログラム51.6%、国際交流体験プログラム52.0%、ローカル探究プログラム53.1%、グローバル・ラボ43.9%と、活動への積極的な関わりについては、いずれのプログラムも約5割となっており、大きな差異は見られない。参加者がいずれのプログラムにも積極的に参加していたことがうかがえる。
- 「グループメンバーやリーダーと協働した」については、グローバル探究プログラム51.0%、ローカル探究プログラム49.0%、グローバル・ラボ48.0%が高くなっている。この3プログラムは全てグループでの活動を重視しており、県大生メンターの心配りや熱心なサポートによって、グループ内のコミュニケーションの円滑化が実現できているものと思われる。ローカル探究プログラム、グローバル・ラボでは、グループ内でコミュニケーションをとる時間を意識的に取り入れたことで、その効果が表れたものと思われる。
- 実際に海外を訪問するグローバル探究プログラムや、講師と一対一で英会話を行う語学力育成プログラムは参加者に与えるインパクトが大きく、特に「自分にとって大きな経験になった」は、語学力育成プログラムが86.7%、グローバル探究プログラムが71.2%と、非常に高い数値となった。
- 「自分で考えて発言、行動できるようになった」（語学力育成プログラム40.0%、グローバル探究プログラム30.1%）、「外国に行きたいと思うようになった」（語学力育成プログラム46.7%、グローバル探究プログラム45.8%）など、行動変容につながる直接アウトカムの項目は、語学力育成プログラムとグローバル探究プログラムが他のプログラムより高い傾向が見られた。
- なお、昨年度は、この「自ら考え、物おしせず行動する力」の直接アウトカム項目は全体的に、語学力育成プログラム、グローバル探究プログラムの数値が高かった。今年度は必ずしもそうした傾向は見られず、全てのプログラムで同様の傾向が見られた。昨年度に比べて、ローカル探究プログラムやグローバル・ラボにおいて、参加者による発表の機会を多く確保したことが結果に表れているものと思われる。

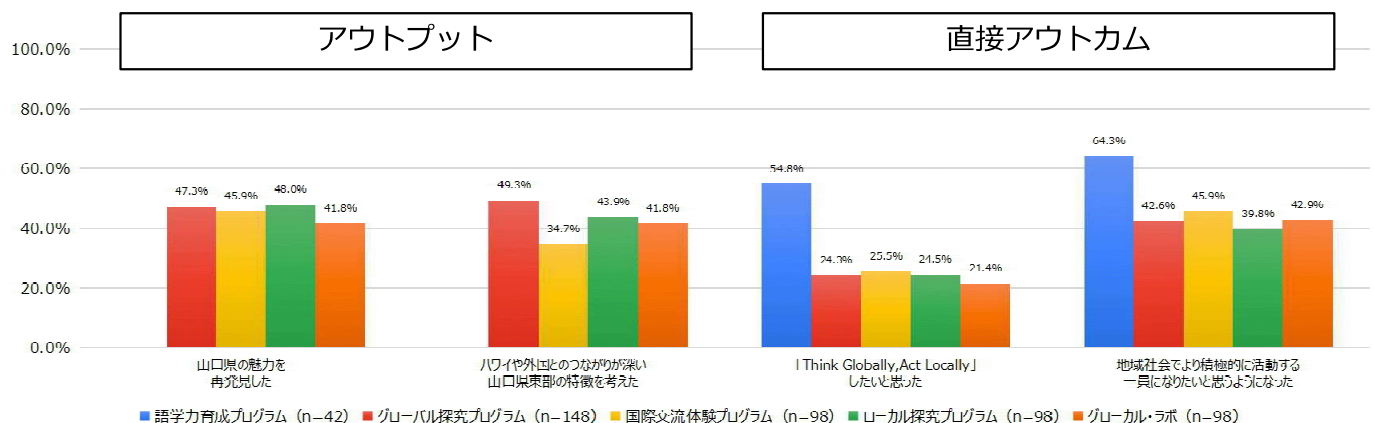
「自ら考え、物おしせず行動する力」への効果



④地域への意識・リーダーシップ

- 「山口県の魅力を再発見した」は、いずれのプログラムでも約5割（グローバル探究プログラム47.3%、国際交流体験プログラム45.9%、ローカル探究プログラム48.0%、グローバル・ラボ41.8%）を示している。国際交流体験プログラムは、外国人が多く暮らす県東部地域ならではのプログラムであり、ローカル探究プログラムは地域のグローバル人材との交流を図るプログラムである。それぞれのプログラムにおいて、地域に目を向ける機会が多くあったことが効果的であったと思われる。
- 一方で、上記①～③で見てきた「育てたい力」には、いずれも6～7割が反応している項目があるのに対して、この「地域への意識・リーダーシップ」に関する項目は、語学力育成プログラムを除いていずれも4割程度と、全体に反応が若干低めの傾向が見られた。海外に行ったり外国人と話したりする強烈な体験と比較して、地元に関することはややインパクトに欠ける面も否めず、その解決も今後の課題と思われる。特に本事業の最も大切な目標である「『Think Globally, Act Locally』 したいと思った」については、語学力育成プログラムを除いて2割程度（グローバル探究プログラム24.3%、国際交流プログラム25.5%、ローカル探究プログラム24.5%、グローバル・ラボ21.4%）にとどまり、全てのプログラムで「Think Globally, Act Locally」をより意識した構成が必要であると思われる。

「地域への意識・リーダーシップ」への効果



9 事業の総括

(1) 事業内容のまとめ

2024年7月からスタートした今年度事業について、時系列に沿って振り返りを行う。

- 2024年7月に行われた「第1回グローバル・ラボ」において、参加者は初めて顔を合わせることとなった。あらかじめ決められたグループに分かれてスタートしたが、会場は緊張感に包まれ、どのグループにもぎこちなさがあった。事業の本題である「グローバル人材とは何か」について学び、岩中先生によるチームビルディングの活動を行ってからは、緊張が少しずつほぐれていったようだった。スワンソン先生の講義は全て英語で行われたが、参加者はみな真剣に取り組んでいた。最後には、デジタルポートフォリオに関する説明も行われたが、初日の緊張感からか、終盤には多少疲れた様子をみせた参加者もいた。県大生メンターは、担当グループの雰囲気を和らげようと努力したり、参加者の性格などを踏まえつつ、一人ひとりに応じた声掛けを行ったりしていた。
- 「第1回グローバル・ラボ」に先駆けて、昨年同様にデジタルポートフォリオの構築を行った。情報提供の場として、提出物等を管理できる場として、また、参加者とメンターがやりとりができる場として運用を行った。
- 国際交流体験プログラムにおいては、グローバル・ラボやローカル探究プログラム内でイベントの告知を行ったり、デジタルポートフォリオで情報提供を行ったりと、参加者への働きかけを随時行った。アンケートでは、外国人と英語でコミュニケーションをとることに難しさを感じながらも「すごく良い経験になった」「間違ってもいいので積極的に英語を話そうと思った」といった感想を述べた参加者もいた。地域に住む外国人と英語で積極的にコミュニケーションをとることが、グローバル人材に近づく一歩であるという意識が生まれていることがうかがえる。
- 2024年9月に行われたローカル探究プログラムでは、白神先生や増野氏といった年代の近い講師の話を身近に感じた参加者が多かったようである。芹澤先生による講義は、参加者にとって難しいテーマではあったが、参加者は県大生メンターの力も借りながらグループワークに熱心に取り組み、全体の前で意見を積極的に述べるなど、大変有意義な時間となった。「ローカル」を意識した「山口クイズ」では、意外に知らない地域の歴史や魅力などに目を向けることができ、また、クイズに取り組む中で、グループの一体感が一気に増したようにも感じられた。グローバル探究プログラム（ハワイ研修）についてのガイダンスも行われ、ハワイでの学びに対する参加者の期待や意識も高まったようであった。
- 上述のローカル探究プログラム終了後、語学コース選択者を対象にオンライン英会話の説明会を行った。DMM英会話の平柳氏に会場いただき、登録方法及び利用方法などについて、分かりやすく説明していただいた。今年度は日本人講師も選択できるようにし、レッスン受講のハードルを低くした結果、昨年度よりも平均受講回数が増加した。前述している効果測定からも、本事業を通じて育てたい力の一つである「語学力・コミュニケーション力」において、オンライン英会話は非常に効果が高いプログラムであることが分かる。オンラインであっても実際に英語を使ってコミュニケーションをとるという行動が、英語を使用することへの自信と成長を促すと考えられる。次年度についても、参加者に対してオンライン英会話の魅力を積極的に伝え、より多くの参加者の受講につながれば、事業効果のさらなる向上も期待できる。
- 2024年12月に行われた「第2回グローバル・ラボ」では、研修会場として初めて岩国国際観光ホテルを使用した。ハワイ研修が近づく中、ハワイに関する学習をテーマに据えたこのラボでは、参加者の意欲もこれまで以上に高かったように感じられた。「ハワイからの中継」では、オンラインを活用して現地の様子を参加者にリアルタイムで届けたり、元気玉プロジェクトなどハワイの特色あるSDGsの取組について紹介したりするなど、「ハワイのいま」について、参加者にさまざまな情報を提供することができた。この「ハワイからの中継」は参加者からの評価も高く、アンケート結果からも、計3回のグローバル・ラボの中でも最も印象に残るプログラムだったという声が多かった。また、浅沼氏による「山口とハワイのつながり」についての講話は、分かりやすく丁寧で、参加者にとって実りある時間になった。ここで学んだ内容が、のちのハワイ研修においてハワイ日本文化センターで学んだこととリンクしていることに感銘を受けた参加者も多かったようである。
- 2025年1月12日（日）～1月17日（金）の期間で、グローバル探究プログラム（ハワイ研修）が実施された。国内での段階的な事前研修を踏まえた上でのプログラムであり、参加者の目的意識も高く、グループの一体感もこれまで以上に強く感じられた。さまざまなアクティビティを短い期間で実施するため、参加者にはやや負担が大きかった部分は否めないが、それぞれが目標を持ち、現地でしか得られない経験・学びに触れ、大いに成長することができた。中でも2日目に実施した「ホロホロ・アドベンチャー」に対する評価は非常に高かった。グループ単位で行動・協力しながらホノルル市内を巡り、英語でコミュニケーションをとりながら課題解決をめざすという仕組み自体に、参加者の成長を促すために必要な要素が多く組み込まれていたこともあり、高評価につながったと考えられる。これを機に、現地で英語を使うことに積極性をより発揮するようになった参加者も多かったようである。3日に行われた学校間交流プログラム・オアフ島体験プログラムも、現地の人々との交流機会がふんだんに用意されており、参加者にとって非常に実りあるプログラムであった。実際に、積極的に英語でコミュニケーションをとる姿が多く見られ、本プログラムの醍醐味を感じられた時間でもあった。ハワイ研修全体を通じて県大生メンターが果たした役割は大きく、初めての海外に不安を感じる参加者に対しての精神的なサポートや、「良きリーダー」としてのロールモデルの提示という観点からも大きな力を発揮していた。

- 2025年2月に行われた「第3回グローバル・ラボ」は、研修最終日でありながら一部の学校行事と日程が重なり、残念ながら欠席となった参加者も多かった。そのような中でも、出席した参加者たちは、本事業での学びを振り返り、あらためて「グローバル人材とは何か」という視点について自身の考えを深めることができた。参加者は各自が作成した修了レポートを基にグループワークを行い、互いの「行動宣言」を表明する中で、1年間の学びの成果を共有した。全体では、時間の関係上限られた人数での成果発表となったが、いずれの発表も内容が濃く、本事業における「育てたい力」がしっかりと育まれていることが実感できた場であった。7月のスタート時点と比べると、グローバルやローカルに対する参加者の意識の高まりは明らかであり、全体として事業成果が十分に得られたものと考えられる。

(2) 課題と改善点

- デジタルポートフォリオについては、「第1回グローバル・ラボ」にて、資料を基に初期登録などの説明を行ったが、分かりづらい、使い方が分からないといった意見もあった。可能であれば、説明時に参加者全員の登録が完了するような方法を考える必要がある。また、参加者本人だけではなく、保護者にもデジタルポートフォリオ内の情報が伝わる仕組みがあると、特にハワイ研修の準備などに関して効率的な情報提供ができたと思われる。
- 語学力育成プログラム（オンライン英会話）について、平均受講回数は上がったものの、受講回数が1桁の参加者もいた。12月の「第2回グローバル・ラボ」においてリマインドを行ったが、もっと早い段階で各自の受講状況に応じた働きかけを行う必要があったと思われる。また、受講開始にあたって、説明会の場で全員で1回目のレッスンの予約をするなど、入口部分でのサポート強化を図ることも重要である。
- 国際交流体験プログラムについて、岩国市内とその周辺で開催される国際交流イベントの数がそれほど多くなく、部活動や学校行事と日程が重なることもあるため、一部の参加者は参加可能なイベントを探すのに苦労したようである。事業実施者がイベント（オンラインも含む）を企画・実施することについても検討の余地があると思われる。
- グローバル・ラボについて、第1回に関しては主催者側にとっても準備期間が短いため、役割分担を明確にしながら、効率的に準備を進めていく必要がある。第2回に関しては、ハワイからの中継の際に電波状況が悪く参加者にとって聞き取りづらい部分があった。参加者の評価も高い内容であるため、インターネット環境などについて細かい確認と事前のシミュレーションが不可欠である。また、ハワイ研修の説明にはある程度の時間がかかるため、当日のプログラムの配列や時間配分等について、事前にしっかりと検討する必要がある。
- ローカル探究プログラムについては、関係者からも、ローカルの部分にもっと焦点を当てるべきだという意見があった。グローバルに事業展開をしている地元企業の協力を得たり、グループごとに地域の企業・スポットを訪問したりといった新たな企画立案についても検討する余地がある。「地域社会（ローカル）に貢献する」という視点は本事業の中心となる考え方であり、この目標の実現に向けた取組についてさらに考えていく必要がある。
- グローバル探究プログラムについては、短い期間で多くのアクティビティを実施するため、参加者や引率者からも「行程がハードである」という感想が聞かれた。改善策として、例えばホテル到着後のアクティビティやオリエンテーションの時間を短くしたり、行程の中に意図的に休憩時間を組む込んだりするなど、参加者の体調管理やスケジュールの柔軟性といった観点を加味しながら日程を計画する必要がある。また、現地での行動について、ルールの共通理解や徹底が必要である。あらゆることを想定した上でそれぞれのケースにおける対応策を事前に確認し、引率者や添乗員間でしっかりと共有しておくことが不可欠である。

(3) 最後に

- 本事業は、県東部地域の県立学校、防衛省及び岩国基地等の協力と、山口県、岩国市、周防大島町、和木町、山口県立大学、事業者、そしてハワイ州教育局、カウアイ郡、ハワイの山口県人会、その他多くの関係機関を含めた国際的な産官学連携により実施されている事業である。今年度事業の実施に多大なる御理解と御協力をいただいた関係各位にあらためて御礼を申し上げるとともに、将来的に多くのグローバル人材が地域社会において活躍することを心から期待したい。

令和6年度東部地域グローバル人材育成事業
事業実施報告書

令和7年(2025年)3月

山口県教育庁高校教育課
〒753-8501 山口市滝町1番1号
TEL 083-933-4627 FAX 083-933-4619

再編関連特別地域整備事業



令和6年度
東部地域グローバル
人材育成事業
事業実施報告書

令和7年(2025年)3月
山口県教育委員会